

現代生活学研究科 人間栄養学専攻

栄養教諭専修免許状

科目名	総合食品栄養学特論		授業番号	GJ501	サブタイトル				
教員	井之川 仁、坪井 誠二、大桑 浩孝、楠本 晃子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	学部での食品栄養学をさらにすすめた講義を行う。『総合』食品栄養学であり、食品や食品に関連する化合物や微生物が人体におよぼす影響を微生物学的視点・運動栄養学的視点からとらえるのみならず、データ解析や食文化の発展に関する内容まで広く講義する。								
到達目標	食品や食品に関連する物質が人体におよぼす影響を理解できるとともに、その有効な利用法や悪影響の防止について広範に説明できる。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	有用微生物								
第2回	微生物利用食品の機能性								
第3回	食品媒介微生物					楠本			
第4回	食事と腸内細菌叢					楠本			
第5回	健康食品とサプリメント								
第6回	食品の残留農薬								
第7回	食事と妊娠								
第8回	食・運動習慣と血糖値					井之川			
第9回	食・運動習慣と自律神経系					井之川			
第10回	ジュニアアスリートの栄養サポート								
第11回	陸上競技選手の栄養サポート					井之川			
第12回	プロサッカー選手の栄養サポート								
第13回	食品学におけるメタ解析								
第14回	食感・食環境と認知神経								
第15回	食文化進化論								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	50	講義への意欲的参加，質疑応答の的確さにより評価する。						
	レポート	50	与えられた課題に対して具体的，論理的に述べられているかにより評価する。						
	小テスト								
	定期試験								
	その他								
評価の方法：	自由記載								
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち，授業に参加すること。								
授業外学修	<ol style="list-style-type: none"> 1 予習として，授業内容に関わる部分を調査し，疑問点を明らかにする。 2 復習として，課題のレポートを書く。 3 発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
使用テキスト：自由記載	特に定めない。科目担当者の指導を受けること。								
参考図書									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
参考書：自由記載	特に定めない。科目担当者の指導を受けること。								
その他									
備考	令和3年度改定								
注意事項									

担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	ジュニアアスリート・プロサッカーチーム・陸上競技選手の栄養指導，薬剤師として健康食品・サプリメントのカウンセリング，健康食品・サプリメントのメタ解析，内閣府食品安全委員会専門委員
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者の有 無	無
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者	
実務経験を いかした教 育内容	実体験を交えた講義および現場での思考方法を伝授する。

科目名	総合食品栄養学演習		授業番号	GJ602	サブタイトル				
教員	井之川 仁、坪井 誠二、大桑 浩孝、楠本 晃子								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	食品や食品に関連する化合物や微生物が人体におよぼす影響を微生物学的視点・運動栄養学的視点から考察するのみならず、データ解析や食文化の発展に関する課題について調査し討論する。								
到達目標	食品や食品に関連する物質が人体におよぼす影響、その有効な利用法や悪影響の防止などの課題解決に向けた調査ができるとともに、的確な討論を行うことができる。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	有用微生物とその利用に関する課題（1）								
第2回	有用微生物とその利用に関する課題（2）								
第3回	食品媒介微生物と腸内細菌叢に関する課題（1）					楠本			
第4回	食品媒介微生物と腸内細菌叢に関する課題（2）					楠本			
第5回	健康食品とサプリメントおよびメタ解析に関する課題（1）								
第6回	健康食品とサプリメントおよびメタ解析に関する課題（2）								
第7回	食・運動習慣と恒常性の維持に関する課題（1）					井之川			
第8回	食・運動習慣と恒常性の維持に関する課題（2）					井之川			
第9回	アスリートの栄養サポートに関する課題（1）					井之川			
第10回	アスリートの栄養サポートに関する課題（2）					井之川			
第11回	アスリートの栄養サポートに関する課題（3）					井之川			
第12回	アスリートの栄養サポートに関する課題（4）					井之川			
第13回	食品および残留農薬が発生・生殖におよぼす影響に関する課題								
第14回	食感・食環境と認知神経に関する課題								
第15回	食文化進化に関する課題								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	50	講義への意欲的参加，質疑応答の的確さにより評価する。						
	レポート	50	与えられた課題に対して具体的，論理的に述べられているかにより評価する。						
	小テスト								
	定期試験								
	その他								
評価の方法：	自由記載								
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち，授業に参加すること。								
授業外学修	1 予習として，授業内容に関わる部分を調査し，疑問点を明らかにする。 2 復習として，課題のレポートを書く。 3 発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
使用テキスト：自由記載	特に定めない。科目担当者の指導を受けること。								
参考図書									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
参考書：自由記載	特に定めない。科目担当者の指導を受けること。								
その他									
備考	令和3年度改定								
注意事項									

担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	ジュニアアスリート・プロサッカーチーム・陸上競技選手の栄養指導，薬剤師として健康食品・サプリメントのカウンセリング，健康食品・サプリメントのメタ解析，内閣府食品安全委員会専門委員
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者の有 無	無
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者	
実務経験を いかけた教 育内容	実体験を交えた講義，文献調査法，および現場での思考方法を伝授する。

科目名	総合人間栄養学特論		授業番号	GK501	サブタイトル				
教員	小野 尚美、古川 愛子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	食・栄養に関わる高度専門職業人として、医療・福祉・栄養教育等の現場における実務や研究活動を推進する上で必要となる基本的であり先進的な知見を俯瞰的に解説する。								
到達目標	この授業を通じて、傷病者の療養や健康維持・増進をはかるための職務を遂行するために普遍的かつ重要な事項を学修し、食・栄養に関わる高度職業人として、社会に貢献する上で重要となる基本的な考え方を身につけることが目標である。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	各担当教員によるオムニバス方式で授業を運営し、以下のテーマ等について解説する。 (1) 成長、発達、加齢における栄養管理に関して、各種学会から出されている提言やトピックスを中心に解説を行う。 (2) 食育にかかわる各種栄養政策について、SDGsにつながる食環境整備の観点から解説する。 (3) 食物・栄養素の消化、吸収について、それらにかかわる消化管ホルモンに視点をあてながら解説する。 (4) 脂質代謝異常によってもたらせる各種疾患(NASH, 脂質異常症等)について概説し、それらに対する最新の栄養療法について解説する。 (5) 体温調節機構およびその破綻によってもたらされる病態および栄養素等の摂取による介入の現状について解説する。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度								
	レポート								
	小テスト								
	定期試験								
	その他	100	授業中の質疑応答、課題レポートを総合的に判断する。						
評価の方法：自由記載	課題やレポートについては、各担当教員よりコメントを記入して返却する。								
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち、授業に出席すること。								
授業外学修	毎週最低4時間は講義内容の予習復習を行うこと								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
使用テキスト：自由記載	特に定めない。科目担当者の指示を受けること。								
参考図書									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
参考書：自由記載									
その他									
備考									
注意事項									
担当教員の実務経験の有無	有								
担当教員の実務経験	医療機器の管理栄養士((8年)、市町村嘱託管理栄養士(3年)として職務を行った(多田)。医療機関の栄養士(3年)、管理栄養士(3年)(古川)として職務を行なった。医師(35年)として医療機関等において診療に従事した(赤木)。								
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無								
担当教員以外で指導に関わる実務経験者									
実務経験をいかした教育内容	臨床現場や健康増進のために行う栄養教育等の業務を、高度専門職業人として遂行するために有用となる内容を学修できるように授業を進める。								

科目名	総合人間栄養学演習		授業番号	GK602	サブタイトル				
教員	小野 尚美、古川 愛子								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	必修	必修・選択	演習
授業概要	総合人間栄養学特論にて学修した領域において根幹をなす資料や最新の知見について、学生自ら関連する論文や資料等を収集し、それらを担当教員とともに講読し、内容について議論を重ね、特論で学修した知識を深化させるための授業である。								
到達目標	食・栄養に関わる高度職業人として、実務・研究を遂行、発展させる上で出現してくる新たな課題に対して、問題点を正しく理解し、その解決法を自ら探究することができる能力を養うことが本授業の目標である。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	各担当教員によるオムニバス方式で授業を運営し、以下のテーマ等について演習を行う。 (1) 各ライフステージにおける栄養管理について事例検討を行う。 (2) 食育にかかわる各種栄養政策について、それらの立案の根拠となった研究成果や資料等について講読し、議論しながら理解を深める。 (3) 各種疾患の栄養療法の実際について、消化管ホルモンの消化、吸収に対する作用をふまえながら関連論文を購読し、議論しながら理解を深める。 (4) 脂質代謝異常によってもたらせる各種疾患(NASH, 脂質異常症等)の栄養療法に関するガイドラインの根拠とされるエビデンスがもたらされた研究成果についての最新の論文を講読し、議論しながら、栄養療法についての理解を深める (5) 体温調節機構およびそれに対する各種栄養素、運動等影響に関する最新の論文を購読し、議論しながら理解を深める。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	40	授業内の質疑応答から評価する						
	レポート	30	課題レポートを評価する						
	小テスト	30	達成度を評価する						
	定期試験								
	その他								
評価の方法：自由記載									
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち、授業に出席すること。								
授業外学修	毎週最低4時間は演習内容の予習復習を行うこと								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
使用テキスト：自由記載	特に定めない。科目担当者の指導を受けること。								
参考図書									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
参考書：自由記載									
その他									
備考									
注意事項									
担当教員の実務経験の有無	有								
担当教員の実務経験	管理栄養士・医師として医療機関や自治体において人々の健康づくりに関する業務に従事								
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無								
担当教員以外で指導に関わる実務経験者									
実務経験をいかした教育内容	高度専門職業人として実際の臨床現場や健康増進のために栄養教育等の業務を遂行する上で、有用となる内容を学修できるように留意する。								

科目名	食品化学特論			授業番号	GL501	サブタイトル	
教員	大桑 浩孝						
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義
						必修・選択	選択
授業概要	食品構成成分の化学的・物理的特性とその栄養機能について理解することは食品の加工・調理を行う上で重要なことである。この特論においては、食品構成成分の化学構造、存在状態について学ぶとともに、加工・調理による食品成分の変化および食品成分間反応についての知識と理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 食品成分の化学的・物理的变化を総合的に理解し、食品の品質との関連性を的確に説明できる能力を養う。 食品化学に関する問題を自発的に調査し、論理的に纏めることができる能力を養う。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。 						
授業計画 備考							
授業計画 自由記載	第1回 食品の種類と分類 第2～5回 食品成分の化学的・物理的特性 (1)水 (2)タンパク質, アミノ酸 (3)脂質 第6～9回 食品成分間反応 (1)脂質代謝 (2)酵素による食品成分の変化 (3)炭水化物代謝 (4)微生物的成分変化 第10～12回 食品素材の化学的特性 第13～14回 調理・加工食品の品質 第15回 まとめと総合討論						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢／態度	50	講義への意欲的参加，質疑応答の的確さにより評価する。				
	レポート	50	与えられた課題に対して具体的，論理的に述べられているかにより評価する。				
	小テスト						
	定期試験						
	その他						
評価の方法：自由記載							
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち，授業に参加すること。						
授業外学修	1 予習として，授業内容に関わる部分を調査し，疑問点を明らかにする。 2 復習として，課題のレポートを書く。 3 発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト							
	書名	著者	出版社	ISBN	備考		
	特に定めない						
使用テキスト：自由記載	特に定めない。						
参考図書							
	書名	著者	出版社	ISBN	備考		
参考書：自由記載							
その他							
備考							
注意事項							
担当教員の実務経験の有無	無						
担当教員の実務経験							
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無						
担当教員以外で指導に関わる実務経験者							
実務経験をいかけた教育内容							

科目名	食品化学演習			授業番号	GL602	サブタイトル	
教員	大桑 浩孝						
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習
						必修・選択	選択
授業概要	食品化学に関する内外の論文についてゼミナル形式で購読する。論文を理解するために必要な食品関連の基礎的知識についても演習を行い、専門知識を深め、食品に関する多角的視野と理解力を養う。また、具体的な事例を取り上げ、演習を通じて問題点の把握と自ら考察する能力を養う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 食品化学に関連した専門原著論文の読解力、理解力、考察力、内容の伝達力を身に付ける。 食品化学に関する課題を自発的に設定、調査し、論理的に解決する能力を身に付ける。 食品に関する現実の問題を、具体的、論理的に纏め、解決することができる能力を養う。 						
授業計画 備考							
授業計画 自由記載	第1～6回 文献購読・討論 (1)～(6) 第7～12回 調査報告・討論 (1)～(6) 第13～14回 事例演習・討論 (1)～(2) 第15回 まとめと総合討論						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	50	講義への意欲的参加、質疑応答の的確さにより評価する。				
	レポート	50	与えられた課題に対する具体的、論理的内容により評価する。				
	小テスト						
	定期試験						
	その他						
評価の方法：自由記載							
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち、授業に参加し討議に加わること。						
授業外学修	1 予習として、授業内容に関わる部分を調査し、疑問点を明らかにする。 2 復習として、課題のレポートを書く。 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト							
	書名	著者	出版社	ISBN	備考		
使用テキスト：自由記載	特に定めない。						
参考図書							
	書名	著者	出版社	ISBN	備考		
参考書：自由記載	特に定めない。						
その他							
備考							
注意事項							
担当教員の 実務経験の有無	無						
担当教員の 実務経験							
担当教員以外で 指導に関わる実務経験者の有無	無						
担当教員以外で 指導に関わる実務経験者							
実務経験を いかけた教育内容							

科目名	代謝調節栄養学特論			授業番号	GM501	サブタイトル	
教員	太田 潤						
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義
						必修・選択	選択
授業概要	ヒトは、食物として各種栄養素を摂取し、それらを消化・吸収した後、エネルギーへの変換、生体高分子への合成および生理活性物質の生成等を行うことで、恒常性を保ちながら生命を維持する。体内において各栄養素は個別にあるいは相互的に絶妙な代謝調節を付けているが、疾病の多くは、この調節機構の破綻の結果ともいえる。本授業では、栄養学的介入を行う上で重要な疾患を中心に、各栄養素の消化・吸収および代謝について、疾患のなりたちに関連づけながら学ぶ。さらに、各種疾患について、栄養指導などの栄養学的治療介入を行う上での根拠となるエビデンスについて理解を深める。						
到達目標	各種疾病のなりたちを理解し、栄養学的理論を展開・応用・実践させる能力を向上させつつ、さらに新たな栄養学的介入を探索するために適切な研究遂行能力を養うとともに、医療現場において、個々人の身体状況・栄養状態に応じて、高度の専門知識を用いた栄養療法を行うための能力を高めることが本授業の目標である。						
授業計画 備考	事前に授業に用いる資料を配布する。						
授業計画 自由記載	第1・2回 消化器系器官の機能と構造 食物の消化、吸収 第3・4回 糖質代謝と疾患 糖尿病 第5・6・7回 脂質代謝と疾患 脂質異常症 肥満とメタボリックシンドローム 動脈硬化 第8回 アミノ酸代謝と疾患 第9回 尿酸代謝と高尿酸血症 第10・11・12回 ミネラル代謝と疾患 腎疾患、骨、貧血 第13回 体温調節と代謝 第14回 睡眠と栄養素、時間栄養学の基礎 第15回 まとめ						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
授業への取り組みの姿勢／態度							
レポート							
小テスト							
定期試験							
その他		100	授業中の質疑応答、課題レポートを総合的に判断する。				
評価の方法：自由記載	課題やレポートについては、コメントを記入して返却する。						
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち、必要に応じ、関連領域の最新論文を読むこと。						
授業外学修	学部時代に学習した関連事項について復習しておくこと。 事前に資料を配布するので、授業前に通読しておくこと。 週当たり4時間以上学ぶこと。						
使用テキスト							
	書名	著者	出版社	ISBN	備考		
使用テキスト：自由記載	特に定めない。適宜資料を配布する。						
参考図書							
	書名	著者	出版社	ISBN	備考		
参考書：自由記載							
その他							
備考							
注意事項							
担当教員の実務経験の有無	無						
担当教員の実務経験							
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無						
担当教員以外で指導に関わる実務経験者							
実務経験をいかした教育内容	実臨床に即した、管理栄養士としての職務実践能力を高める内容に重点をおき授業を進める。						

科目名	代謝調節栄養学演習			授業番号	GM602	サブタイトル			
教員	太田 潤								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	各種栄養素の代謝およびそれらに関連した疾患についての論文を講読し、内容について議論を重ねることで代謝調節栄養学特論で習得した知識を深めるための演習を行う。								
到達目標	栄養学的アプローチが重要とされる疾患の最新の知見に関する論文を読み解きつつ、討論に参加することを通じて疾病に対する理解をより深める。さらに新たな栄養学的介入を探索するために必要な研究遂行能力を養うとともに、医療現場において個々人の身体状況や栄養状態に応じて、高度の専門知識を用いた栄養療法を行うことができる能力を高めることを目標とする。								
授業計画 備考	事前に授業に用いる資料を配布する。								
授業計画 自由記載	第1～8回 各種栄養素の代謝と関連疾患に関する論文の講読と討論 第9～10回 栄養障害にともなう代謝調節の変化・破綻に関する論文の講読と討論 第11～13回 老化にともなう各種病態と栄養素摂取に関する論文の講読と討論 第14回 体温調節機構とそれに影響する栄養素摂取に関する論文の講読と討論 第15回 総合討論								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度								
	レポート								
	小テスト								
	定期試験								
	その他	100	授業中の質疑応答，課題レポートを総合的に判断する。						
評価の方法：自由記載	課題やレポートについては、コメントを記入して返却する。								
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち、講義に参加し、討議に加わること。								
授業外学修	事前に配布した資料を通読しておくこと。 週当たり1時間以上、授業外の学修を行うこと。								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
使用テキスト：自由記載	特に定めない。資料を事前に配布する。								
参考図書									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
参考書：自由記載									
その他									
備考									
注意事項									
担当教員の実務経験の有無	無								
担当教員の実務経験									
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無								
担当教員以外で指導に関わる実務経験者									
実務経験をいかけた教育内容	実臨床に即した、管理栄養士としての職務実践能力を向上させる内容に重点を置きながら授業を進める。								

科目名	細胞栄養学特論			授業番号	GN501	サブタイトル			
教員	坪井 誠二								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	ヒトが摂取する栄養分は、基本的には細胞内において代謝され生体成分としての固有の働きを示し、細胞を基本としたさまざまな生命現象に関与する。本特論では生体を構成する組織細胞内で営まれる生体高分子の代謝や諸反応を分子レベルで分析・総合し、生命維持における各栄養素の役割を理解する。								
到達目標	ヒトの摂取した栄養が実際に細胞内でどのようなしくみで生命を支えているかを、細胞レベル、分子レベル、遺伝子レベルから深く理解できる。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	生物にとって栄養とは何か								
第2回	食物と栄養								
第3回	物質（炭素）の代謝と栄養の摂取								
第4回	物質（窒素）の代謝と栄養の摂取								
第5回	生体エネルギーと細胞代謝								
第6回	細胞内への物質の出入りの仕組み								
第7回	細胞の構造と機能								
第8回	細胞の構造と機能								
第9回	細胞小器官の構造と機能								
第10回	細胞小器官の構造と機能								
第11回	細胞の進化								
第12回	細胞間情報伝達								
第13回	細胞内シグナル伝達								
第14回	遺伝子と遺伝子発現								
第15回	栄養面から見た生命の進化								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	50	授業への取り組み姿勢、授業での質疑応答						
	レポート	50	授業内容の課題レポート（毎回）						
	小テスト								
	定期試験								
	その他								
評価の方法： 自由記載									
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えと探究心をもって授業に臨むこと。								
授業外学修	英文の資料と参考書を併用して、輪読形式で授業をおこなう。週あたり4時間以上の予備学修を行って授業に出席すること。								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
使用テキスト：自由記載	特に定めない。演習の都度本人に資料を提供する。								
参考図書									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
参考書：自由記載	なし								
その他	なし								
備考									
注意事項									

担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者の有 無	無
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者	
実務経験を いかした教 育内容	

科目名	細胞栄養学演習			授業番号	GN602	サブタイトル			
教員	坪井 誠二								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	前半では、調査目標とするトピックを決め、文献調査と複数の原著論文の抄読を行う。 後半では、調査した複数の文献に掲載されていた実験結果をもとに、学会発表形式でパワーポイントを用いて調査結果のプレゼンテーションを行う。								
到達目標	設定したトピックに関連した最新の原著論文を検索することができる。 複数の原著論文を読み解き、結果をプレゼンテーションすることができる。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	調査トピックの決定と、原著論文の検索								
第2回	論文抄読								
第3回	論文抄読								
第4回	論文抄読								
第5回	論文抄読								
第6回	論文抄読								
第7回	論文抄読								
第8回	論文抄読								
第9回	調査結果のまとめとプレゼンテーション資料の作成								
第10回	調査結果のまとめとプレゼンテーション資料の作成								
第11回	調査結果のまとめとプレゼンテーション資料の作成								
第12回	調査結果のまとめとプレゼンテーション資料の作成								
第13回	調査結果のまとめとプレゼンテーション資料の作成								
第14回	調査結果のまとめとプレゼンテーション資料の作成								
第15回	プレゼンテーションと討論（質疑応答）								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	50	演習への取り組み、質疑応答。						
	レポート	50	演習内容の課題レポート（毎回）						
	小テスト								
	定期試験								
	その他								
評価の方法： 自由記載									
受講の心得	自ら進んで新しい問題を見つけ、明らかにしようとする心構えと探究心が必要である。								
授業外学修	英文の資料参考書を併用する。基本事項についてあらかじめ学修・準備して授業に臨むこと（週あたり4時間以上）。								
使用テキスト									
書名	著者	出版社	ISBN	備考					
使用テキスト：自由記載	特に定めない。演習の都度本人に資料を提供する。								
参考図書									
書名	著者	出版社	ISBN	備考					
参考書：自由記載	なし								
その他	なし								
備考									
注意事項									

担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者の有 無	無
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者	
実務経験を いかした教 育内容	

科目名	栄養生理学特論			授業番号	GO501	サブタイトル			
教員	井之川 仁								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	人体の栄養に関わる生理機能は、消化器系ばかりでなく統合的に神経が統轄する生理機能の一つととらえることができる。本特論では、特に神経細胞における刺激伝達物質受容体の構造、脳内分布、神経刺激伝達とそれに続く脳の統合機能を学ぶ。								
到達目標	摂食や飲水行動の中枢である視床下部の機能について、ホルモン合成、分泌を含めて、報酬系、嫌悪系などの神経伝達調節物質と食行動の関わりについて理解を深め、高度専門職業人としての職務を果たす能力を養う。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	栄養と摂食								
第2回	中枢神経系における摂食， 飲食調節								
第3回	摂食行動と視床下部摂食中枢の機能								
第4回	摂食行動と視床下部満腹中枢の機能								
第5回	摂食行動に影響を与える因子								
第6回	糖代謝とインスリン分泌								
第7回	中枢神経系におけるインスリンの作用								
第8回	サイトカインの栄養生理における役割								
第9回	中枢神経系における食欲抑制物質 1								
第10回	中枢神経系における食欲抑制物質 2								
第11回	中枢神経系における食欲抑制物質受容体								
第12回	飲水行動に影響を与える因子								
第13回	血漿浸透圧と体液量の調節								
第14回	ホルモンとストレス環境への対応								
第15回	神経系とストレス環境への対応								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	30	質疑応答から評価する						
	レポート	20	課題レポートを評価する						
	小テスト								
	定期試験	50	最終的な理解度を評価する						
	その他								
評価の方法： 自由記載									
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち、授業に出席すること。								
授業外学修	毎週最低4時間は講義内容の復習を行うこと								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
使用テキスト：自由記載	プリントを配布する。								
参考図書									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
参考書：自由記載									
その他									
備考									
注意事項									

担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者の有 無	無
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者	
実務経験を いかした教 育内容	

科目名	栄養生理学演習			授業番号	GO602	サブタイトル	
教員	井之川 仁						
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習
必修・選択							必修・選択
選択							
授業概要	特論に関連する具体的かつ現実的な課題を取り上げ、解決する方策を立案する。このことは、栄養教諭が実際に直面する、学童・生徒の食に関わる問題を解決するために必要な指導力を養うことになる。取り上げる課題は以下のようなものである。人体の構造・機能のホメオスタシスを維持する中枢として、神経系の機能を熟知し、外部から機能を調節する因子について理解を深める。						
到達目標	栄養素の意義、摂取食品の栄養源のバランスなどと疾病の関係などについて、深く理解し、高度専門職業人としての職務を果たす能力を養う。						
授業計画 備考							
授業計画 自由記載	第1回 摂食、飲食調節に関わる中枢の機構 第2回 摂食行動と視床下部摂食中枢の機能 第3回 摂食行動と視床下部満腹中枢の機能 第4回 摂食行動に影響を与える多様な因子・条件 第5回 中枢神経系におけるホルモンの作用 第6回 脂質代謝1 第7回 脂質代謝2 第8回 脂質代謝3 第9回 神経系とストレス環境への対応1 第10回 神経系とストレス環境への対応2 第11-15回 上記の課題論文を中心として、栄養生理学関連分野について、総合的に討論する。						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢／態度	50	質疑応答から評価する				
	レポート	50	課題レポートを評価する				
	小テスト						
	定期試験						
	その他						
評価の方法：自由記載	時間内の質疑応答、課題レポートにより行う。						
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち、授業に出席すること。						
授業外学修	毎週最低4時間は演習内容の予習復習を行うこと						
使用テキスト							
	書名	著者	出版社	ISBN	備考		
使用テキスト：自由記載	特に定めない。科目担当者の指導を受けること。						
参考図書							
	書名	著者	出版社	ISBN	備考		
参考書：自由記載							
その他							
備考							
注意事項							
担当教員の実務経験の有無	無						
担当教員の実務経験							
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無						
担当教員以外で指導に関わる実務経験者							
実務経験をいかした教育内容							

科目名	環境・食品微生物学特論			授業番号	GP501	サブタイトル	
教員	楠本 晃子						
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義
							必修・選択
授業概要	地球環境には、様々な微生物が存在し、ヒトの生活と密接に関係している。本特論では、微生物の有効利用および感染症・食中毒の起因微生物についての最近の知見を学ぶ。また、食品安全確保および食品の品質保持方法について学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境に関わる微生物の生態学的な意義を理解するとともに、食品の生産に関わる微生物や感染症・食中毒に関する微生物の特徴および制御について理解し、実践的な知識を身につける。 ・専門的かつ実践的な食品安全に関する知見および手段を身につける。 						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	環境と微生物(1)						
第2回	環境と微生物(2)						
第3回	食品と病原微生物(1)						
第4回	食品と病原微生物(2)						
第5回	感染症と微生物						
第6回	食品の腐敗と微生物フローラ						
第7回	食品保存と微生物						
第8回	微生物による環境浄化						
第9回	微生物の機能と食品						
第10回	微生物とバイオテクノロジー						
第11回	健康と腸内フローラ						
第12回	食品安全確保の考え方						
第13回	HACCPと食品衛生管理						
第14回	遺伝子手法による微生物学的衛生管理						
第15回	全体のまとめ						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	50	授業時間内の質疑応答が的確にできている。				
	レポート	50	与えられた課題に関する内容を具体的に述べている。				
評価の方法： 自由記載							
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち、講義に参加し、討議に加わること。						
授業外学修	<ol style="list-style-type: none"> 1 予習として、授業内容に関わる部分を調査し、疑問点を明らかにする。 2 復習として、課題のレポートを書く。 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト							
	書名	著者	出版社	ISBN	備考		
使用テキスト： 自由記載	特に定めない。科目担当者の指導を受けること。						
参考図書							
	書名	著者	出版社	ISBN	備考		
参考書：自由記載							
その他							
備考							
注意事項							

担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者の有 無	無
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者	
実務経験を いかした教 育内容	

科目名	環境・食品微生物学演習			授業番号	GP602	サブタイトル	
教員	楠本 晃子						
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習
						必修・選択	選択
授業概要	環境・食品微生物に関する文献および微生物制御技術や品質管理に関する文献を講読する。各自が興味のある環境・食品微生物について検査を行い、理解を深める。各自が問題点を整理し討論を行うことで、研究を評価できる能力と人の生活環境を取り巻く微生物の制御に関する実践力を習得する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 環境・食品に関わる微生物の病原性と有用性を評価できる能力および微生物に関する情報を適切に評価できる能力を身につける。 微生物に関する知識・理解を深め、食品の品質管理などの微生物制御を実践・展開する能力を身につける。 						
授業計画 備考							
授業計画 自由記載	第1～3回 環境微生物分野の論文の講読と討論 第4～9回 食品微生物分野の論文の講読と討論 第10～14回 環境・食品微生物の検査 第15回 全体のまとめ						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢／態度	50	授業時間内の質疑応答が的確にできている。				
	レポート	50	与えられた課題に関する内容を具体的に述べている。				
評価の方法：自由記載							
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち、講義に参加し、討議に加わること。						
授業外学修	1 予習として、授業内容に関わる部分を調査し、疑問点を明らかにする。 2 復習として、課題のレポートを書く。 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト							
	書名	著者	出版社	ISBN	備考		
使用テキスト：自由記載	特に定めない。科目担当者の指導を受けること。						
参考図書							
	書名	著者	出版社	ISBN	備考		
参考書：自由記載							
その他							
備考							
注意事項							
担当教員の実務経験の有無	無						
担当教員の実務経験							
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無						
担当教員以外で指導に関わる実務経験者							
実務経験をいかした教育内容							

科目名	健康栄養学特論			授業番号	GQ501	サブタイトル	
教員							
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義
							必修・選択
授業概要	栄養と健康との関わりについて、学部での学習を基盤にさらに専門性を深め、より実践的な知識を学習する。出来る限り多角的な視点から課題を設定し、具体的な事例報告等をもとに、実践的手法、技術を学ぶ。これにより、適正な食生活、生活習慣、栄養管理の意義、栄養アセスメントなどについて対象者の理解を促す方法を思考し、ディスカッションする。そして、健康・栄養指導者として、より幅広い視野をもって対応する能力を養う。						
到達目標	各ライフステージにおける健康維持に必要な栄養学的側面や生活習慣的側面を理解し、解説することができる。中でも、幼小児期および成人期・高齢期における栄養アセスメントに必要な生化学的検査、臨床医学的検査、生活状況調査などの過程と評価を理解し、問題点を探求し、考察できる能力や対象者に対応・指導できる能力を身につける。						
授業計画 備考							
授業計画 自由記載	<p>第1～14回 提示するテーマに関する文献検索と文献紹介・抄読を通して、成長、発達、加齢に伴う身体的・精神的特徴と栄養について学び、健康維持に向けた栄養の指導に活かす。以下のテーマについて学修する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病の各種要因（生活習慣、遺伝体質、加齢・老化、性差、環境等）の評価・検討 健康的な生活習慣（食・運動・喫煙・飲酒・睡眠習慣、ストレス等）の評価と対策 幼小児期または成人期・高齢期における健康・栄養状態の把握と問題点の抽出 幼小児期または成人期・高齢期における健康・栄養状態の背景考察と対策事例の理解 幼小児期または成人期・高齢期における健康・栄養状態を解決するための健康教育理論の応用 <p>第15回 まとめ</p>						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。				
	レポート	50	授業内容のまとめとして出される課題により、問題解決能力の修得に役立たすこと。課題については、確認し返却をする。				
	小テスト						
	定期試験						
	その他						
評価の方法：自由記載							
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち、授業に出席すること。						
授業外学修	<ol style="list-style-type: none"> 1 予習として、授業内容にかかわる著書や雑誌を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、課題のレポートを書く。 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。 <p>以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。</p>						
使用テキスト							
	書名	著者	出版社	ISBN	備考		
使用テキスト：自由記載	特に定めない。科目担当者の指導を受けること。						
参考図書							
	書名	著者	出版社	ISBN	備考		
参考書：自由記載							
その他							
備考							
注意事項							
担当教員の実務経験の有無	有						
担当教員の実務経験	病院の管理栄養士、市町村嘱託栄養士						
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無						
担当教員以外で指導に関わる実務経験者							
実務経験をいかした教育内容	臨床栄養現場や健康づくり啓発普及のための管理栄養士・栄養士業務を通して、栄養ケアマネジメントの実際、妊産婦栄養管理および栄養指導、離乳食相談、幼児期・学童期・思春期・成人期および高齢期における栄養管理等を指導する。						

科目名	健康栄養学演習			授業番号	GQ602	サブタイトル			
教員									
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	健康栄養学特論で学んだ内容をもとに、指定した課題について文献検索、抄読を行い、担当指導者とディスカッションしながら、理解を深めて、課題解決能力を養う。さらに担当指導者や受講生同士と共に測定することにより、様々な測定技術を修得し、また指導者が提示する調査データや測定値などをもとに集計解析する手法を学び、対象者に適切な食生活・保健習慣を身につけてもらうための健康・栄養教育を実践できる能力を養う。								
到達目標	健康や栄養学に関する専門的な論文等を抄読の上その内容を考察、説明し、正しく判断評価することができるようになる。実際に、健康・栄養状態を判断するために必要な各種測定方法や調査方法を理解し、その技術を身につける。また、それらの測定値等を適切に処理する技法や実際の調査・測定値を使った情報処理技術を理解・演習し、考察できる能力を身につける。その結果から適切に対象者に対応・指導できる能力を身につける。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	<p>第1～7回 現代の栄養および食生活における問題点を抽出し、健康のあり方を考察する。加えて、栄養教育・食育等に関する実践的論文を輪読・抄読し、新しい知識を付加していくとともに、健康に関するタイムリーな問題点を捉えた、実際の調査・測定値をもとに、その処理技法、評価法を理解、演習し、問題点を明確にして解決法を検討し、その具体的解決策についてのプランを立案する。</p> <p>第8～14回 応用栄養学に関する専門的な論文を講読し、論文の課題・方法・結果等について検討する。論文を正しく自分で評価する能力を養い、それを習慣づける。また身体・栄養状態、動脈硬化度、自律神経等を測定し評価する。その結果をクライアントに適切に説明（フィードバック）し、状況に応じた適正な栄養管理・教育、生活指導ができる能力を身につける。</p> <p>第15回 まとめとディスカッション</p>								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	50	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。						
	レポート	50	授業内容のまとめとして出される課題により、問題解決能力の修得に役立たすこと。課題については、確認し返却をする。						
	小テスト								
	定期試験								
	その他								
評価の方法：自由記載									
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち、授業に出席すること。								
授業外学修	<ol style="list-style-type: none"> 1 予習として、授業内容にかかわる著書や雑誌を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、課題のレポートを書く。 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
使用テキスト：自由記載	特に定めない。科目担当者の指導を受けること。								
参考図書									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
参考書：自由記載									
その他									
備考									
注意事項									
担当教員の実務経験の有無	有								
担当教員の実務経験	病院の管理栄養士、市町村嘱託栄養士								
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無								
担当教員以外で指導に関わる実務経験者									
実務経験をいかした教育内容	臨床栄養現場や健康づくり啓発普及のための管理栄養士・栄養士業務を通して、栄養ケアマネジメントの実際、妊産婦栄養管理および栄養指導、離乳食相談、幼児期・学童期・思春期・成人期および高齢期における栄養管理等を指導する。								

科目名	病態栄養学特論		授業番号	GR501	サブタイトル				
教員	太田 潤、古川 愛子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	傷病者の栄養管理においては、病態に応じた適切な栄養摂取ならびに体内での各種栄養素の代謝を、深く理解することが重要である。本授業では、栄養指導・栄養療法において重要な疾患について、疾病を抱えた患者に対して、最新の知見を踏まえ、病態に即した栄養教育力や実践的な指導力を身につけることができるよう授業を進める。								
到達目標	栄養素とその体内での代謝について理解したうえで、摂取栄養素の過不足やアンバランスが体内代謝と健康に影響することを学ぶ。さらに、各種栄養素の体内代謝は、遺伝的要因など個体側の要因によって大きな影響を受けることを理解して、個人差を考慮した栄養摂取についての介入の必要性について理解する。その上で、各種疾患における栄養教育がより着実に実践できる能力を養うことが本授業の目的である。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第1回 侵襲と栄養素代謝 第2回 栄養の補給法 第3回 代謝性疾患、とくに糖・脂肪代謝の栄養学 第4回 循環器疾患の栄養支援 第5回 消化器疾患の栄養ケア 第6回 炎症性腸疾患の栄養ケアと食事療法 第7回 肝不全の栄養管理と疾病進展の予防 第8回 腎不全の栄養ケア 第9回 骨粗鬆症の病態と管理・予防の栄養学 第10回 悪性腫瘍の栄養管理と栄養指導 第11回 高齢者の栄養ケア 第12回 周術期の栄養ケア 第13回 呼吸器疾患(COPD)の栄養ケア 第14回 食物アレルギーと栄養ケア 第15回 高尿酸血症・痛風と栄養ケア								
授業計画 備考2									
評価の方法	種別	割合	評価基準・その他備考						
授業への取り組みの姿勢／態度									
レポート									
小テスト									
定期試験									
その他		100	授業中の質疑応答、課題レポートを総合的に判断する。						
評価の方法：自由記載	課題やレポートについては、各担当教員よりコメントを記入して返却する。								
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち、授業に出席すること。								
授業外学修	1, 授業に用いる資料を次回授業までに読んでおく。 2, 配布資料を元に質疑、討論ができるように準備しておく。 3, 授業に関連した項目についてレポートを作成する。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。								
使用テキスト	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
使用テキスト：自由記載	特に定めない。オムニバス方式で授業を行うので、各々、授業担当者の指導を受けること。								
参考図書	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
参考書：自由記載									
その他									
備考									
注意事項									
担当教員の実務経験の有無	有								
担当教員の実務経験	栄養士・管理栄養士(計6年間)としての実務経験を有する。								
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無								
担当教員以外で指導に関わる実務経験者									
実務経験をいかした教育内容	チーム医療の一員として、傷病者への栄養療法を進める実践能力を養えるよう、両担当教員同士が連携をはかりながら授業を進める。								

科目名	病態栄養学演習		授業番号	GR602	サブタイトル	(事例提示による栄養ケアの実践法を学ぶ)				
教員	太田 潤、古川 愛子									
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	選択	必修・選択	演習	
授業概要	病態栄養学特論で学んだ疾患を中心として、関連する具体的事例についてそれらに対する栄養学的介入法について探究する中で、問題点を抽出し、関連する文献を調べ必要事項を調査しながら、疾患に対しての理解を深める。明確で的確な問題解決方法をあきらかにする。									
到達目標	各病態の具体的事例について、問題点を抽出し、最新の論文等にあたりながら問題解決方法をあきらかにする努力を重ねることで、明確で的確な栄養管理計画書の作成することができる能力を身につけるとともに、新たな栄養学的治療介入法を探索する能力を養うことが本演習の目的である。									
授業計画 備考										
授業計画 自由記載	あらかじめ提示した各症例(事例)に関わる病態栄養学上の問題点を取り上げた最新の論文を検索、入手する作業を行い、それらの論文の講読をゼミナル形式で行い、エビデンスに基づいた栄養評価方法や栄養治療方法の理解を深め、実践できるよう能力を養う。									
授業計画 備考2										
評価の方法										
	種別	割合	評価基準・その他備考							
	授業への取り組みの姿勢/態度	50	実践的な栄養ケアマネジメントについて積極的な討論を評価する。							
	レポート	50	事例に応じて実践可能な栄養ケアマネジメントについて具体的なレポートを作成する。							
	小テスト									
	定期試験									
	その他									
評価の方法：自由記載										
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち、授業に出席すること。									
授業外学修	1, 授業に用いる資料を次回授業までに読んでおく。 2, 配布資料を元に質疑、討論ができるように準備しておく。 3, 授業に関連した項目についてレポートを作成する。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。									
使用テキスト										
	書名	著者	出版社	ISBN	備考					
使用テキスト：自由記載	特に定めなし。科目担当者の指導を受けること。									
参考図書										
	書名	著者	出版社	ISBN	備考					
参考書：自由記載										
その他										
備考										
注意事項										
担当教員の実務経験の有無	有									
担当教員の実務経験	管理栄養士としての実務経験を有する。									
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無									
担当教員以外で指導に関わる実務経験者										
実務経験をいかした教育内容	医師・管理栄養士の立場から、栄養療法遂行における実践能力の向上に資する内容に重点を置き、授業を進める。									

科目名	公衆衛生学特論			授業番号	GS501	サブタイトル	
教員	太田 潤						
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義
						必修・選択	選択
授業概要	人間集団の健康増進と疾病予防のために、生活環境や食品の衛生管理を科学的エビデンスに基づいて判断し施策を立案できる能力を養う。そのために保健・医療・福祉・介護システムを深く理解し、環境保全、環境衛生維持、学校保健などの具体的な方策や施策を理解しその評価が正しく行える能力を養う。また、疫学的判断ができる能力を養う。						
到達目標	科学的エビデンスに基づく評価・判断能力を身に付け、高度専門職業人としての職務を果たす能力を養う。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	公衆栄養・公衆衛生学の意義						
第2回	衛生統計：衛生統計の意義						
第3回	衛生統計：疾病統計						
第4回	産業保健：労働と健康						
第5回	産業保健：生物学的モニタリング						
第6回	産業保健：生物学的モニタリングの栄養分野への応用						
第7回	学校保健：学校保健の意義，学校給食						
第8回	環境保健：環境保健の意義						
第9回	環境保健：環境保全						
第10回	保健・医療・福祉と介護						
第11回	高齢者保健						
第12回	疫学：疫学の意義						
第13回	疫学：感染症の疫学						
第14回	栄養疫学の意義						
第15回	まとめ						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な学習態度				
	レポート	50	データに対して十分な考察がなされている				
	小テスト						
	定期試験						
	その他						
評価の方法：自由記載							
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち、授業に出席すること。						
授業外学修	レポートの作成など、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト							
	書名	著者	出版社	ISBN	備考		
使用テキスト：自由記載							
参考図書							
	書名	著者	出版社	ISBN	備考		
参考書：自由記載							
その他							
備考							
注意事項							

担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者の有 無	無
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者	
実務経験を いかした教 育内容	食・栄養に関わる福祉，介護について，行政での現場経験を生かした内容に重点を置く。

科目名	公衆衛生学演習			授業番号	GS602	サブタイトル			
教員	太田 潤								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	セミナー方式で関連論文を講読するとともに、現場実務者を迎えて現実のエビデンスに基づいて理解を深め、建設的かつ具体的な討論をすることができる能力を養い、討論により関連分野の自己の評価判断基準を確立する。								
到達目標	公衆衛生学と栄養学の関連を明瞭にし、課題解決にむけての研究方法を会得し、高度専門職業人としての職務を果たす能力を養う。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	保健統計関連論文の読解 その1								
第2回	保健統計関連論文の読解 その2								
第3回	保健統計関連論文の読解 その3								
第4回	産業保健関連論文の読解 その1								
第5回	産業保健関連論文の読解 その2								
第6回	産業保健関連論文の読解 その3								
第7回	学校保健関連論文の読解 その1								
第8回	学校保健関連論文の読解 その2								
第9回	学校保健関連論文の読解 その3								
第10回	高齢者保健関連論文の読解 その1								
第11回	高齢者保健関連論文の読解 その2								
第12回	高齢者保健関連論文の読解 その3								
第13回	環境保健関連論文の読解 その1								
第14回	環境保健関連論文の読解 その2								
第15回	まとめの発表								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な学習態度						
	レポート	50	データに対して十分な考察がなされている						
	小テスト								
	定期試験								
	その他								
評価の方法：	自由記載								
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち、授業に出席すること。 事前に論文を配布するので、授業までに十分に読み込んでくること。								
授業外学修	レポートの作成など、週当たり4時間以上学修すること。								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
使用テキスト：自由記載									
参考図書									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
参考書：自由記載	テキストは使用せず、実際の論文をテキストとする。								
その他									
備考									
注意事項									

担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者の有 無	無
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者	
実務経験を いかした教 育内容	

科目名	特別研究	授業番号	GT701	サブタイトル	
教員	井之川 仁、坪井 誠二、太田 潤、小野 尚美、大桑 浩孝、古川 愛子、楠本 晃子				
単位数	8単位	開講年次	2年	開講期	前期
				授業形態	必修
					必修・選択
					実習
授業概要	本授業においては、「実践研究論文」あるいは「研究論文」を、指導教員の指導のもと完成させることを目的とする。前者は管理栄養士がその専門性を生かして職務を遂行することが期待される病院や企業等において3～6ヶ月間程度、より専門的で実践的な手技・知識を習得するとともに現場での問題点を発掘し、その問いに対する普遍的であり実証的な答えを探求する「実践研究」によりもたらされる論文である。後者は、先行研究を踏まえた食・栄養に関する今日的課題を設定し、あるいは新しい事実、事象の発見を目指して、実験・調査を行い、得られた具体的なデータにもとづいた研究成果を、論理的・実証的に導き出す努力を行うことで得られるものである。				
到達目標	本授業において完成された論文は、学術論文として関連雑誌・紀要などへ投稿し、掲載・公表され、社会に対して得られた知見を明確に発信する能力を養う。				
授業計画 備考					
授業計画 自由記載	指導教員と綿密な打ち合わせを行いながら研究計画をたて、得られた結果について議論をしながら、論文の内容を高めていく。				
授業計画 備考2					
評価の方法					
	種別	割合	評価基準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度				
	レポート				
	小テスト				
	定期試験				
	その他	100	修士研究論文審査の結果をふまえて評価する		
評価の方法：自由記載					
受講の心得					
授業外学修	毎週最低4時間は学習すること				
使用テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	特に指定しない。指導教員の指示にしたがうこと。				
参考図書					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載					
その他					
備考					
注意事項					
担当教員の実務経験の有無	無				
担当教員の実務経験					
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

子ども学研究科 子ども学専攻

幼稚園教諭専修免許状

小学校教諭専修免許状

共通科目

科目名	教育方法学特論			授業番号	MB301	サブタイトル	
教員	住野 好久						
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義 (対面授業科目)
							必修・選択
選択							
授業概要	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法及び技術に関する研究の到達点を学び、それを実践するための力量を身につける。						
到達目標	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法及び技術に関する研究の到達点を理解すること。それに基づく教育実践を創造する力量を身につけること。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた「高度な専門性を備えた教育者」の育成に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	教育方法学研究の全体像 教育方法学研究の歴史の変遷から現代的な課題について概括する。						
第2回	教育方法学研究の歴史(1)－コメニウス 教育方法学の歴史をたどり、実質陶冶の始祖としてのコメニウスの業績について検討する。						
第3回	教育方法学研究の歴史(2)－ヘルバルト 教育方法学の歴史をたどり、現在の学習指導につながるヘルバルトの5段階教授法について検討する。						
第4回	教育方法学研究の歴史(3)－デューイ 教育方法学の歴史をたどり、子ども中心の新教育への変革を唱えたデューイの教育方法について検討する。						
第5回	教育方法学研究の歴史(4)－戦後新教育 日本における戦後の教育方法学の歴史をたどり、民主主義の発展を企図した新教育運動について検討する。						
第6回	教育方法学研究の歴史(5)－教育の現代化 日本における戦後の教育方法学の歴史をたどり、スパートニクショックを起点とした教育の現代化について検討する。						
第7回	教育方法学研究の歴史(6)－集団学習法 学習者を小グループに分け討論などを用いて行う教育方法であるバス学習やジグソー学習などについて検討する。						
第8回	教育方法学研究の歴史(7)－学びの共同体論 学習者主体の協働・共同的な学習を実現するための学びの共同体論について議論する。						
第9回	教育方法学研究の歴史(8)－アクティブ・ラーニング 平成29年告示の学習指導要領において授業改善の視点として取り入れられたアクティブ・ラーニングの理念と方法について検討する。						
第10回	教育方法学研究の実践課題(1)－学力・資質能力論 平成29年告示の学習指導要領において示された学校教育において育成する資質・能力の3つの柱について学力論の観点から検討する。						
第11回	教育方法学研究の実践課題(2)－教授と学習 教育の根幹をなす教授と学習についてその原理や方法について行動主義や認知主義、構成主義の学習論の立場から検討する。						
第12回	教育方法学研究の実践課題(3)－指導と評価の一体化 学習指導の表裏一体となる学習評価について、形成的評価や総括的評価などの評価論を用いながら指導と評価の一体化について議論する。						
第13回	教育方法学研究の実践課題(4)－授業づくりと学級づくり 学級経営の視点をもった各教科等の授業づくりの意義と方法について検討する。						
第14回	教育方法学研究の到達点を踏まえた実践構想の発表 (第1回) これまでの授業での学修内容を踏まえ、教育方法学の立場から今後の授業の在り方について検討する。						
第15回	教育方法学研究の到達点を踏まえた実践構想の発表 (第2回) これまでの授業での学修内容を踏まえ、教育方法学の立場から今後の授業の在り方について検討し、実践構想を発表する。						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	40	意欲的な受講態度、発表・討議への参加・貢献、予・復習の状況によって評価する。				
	レポート	60	講義内容を深く理解したうえで、教育方法学の実践化のための知見を示すこと。レポートについてはコメントを記入して返却する。				
評価の方法：自由記載							
受講の心得	教育実習等での経験と講義内容を結びつけながら学修すること。 授業で配付するプリント・資料などを整理し、講義ノートを詳細にとること。						
授業外学修	1 予習：配付された資料を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習：ノートの内容を確認し、プリント・資料などを整理する。 3 発展学習：紹介された参考文献を読む。可能な範囲で教育実践に活用する。						
使用テキスト							
	書名	著者	出版社	ISBN	備考		
使用テキスト：自由記載	随時、プリントを配布する。						
参考図書							
	書名	著者	出版社	ISBN	備考		
参考書：自由記載							

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	

科目名	教育心理学特論			授業番号	MC301	サブタイトル			
教員	國田 祥子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義(対面授業科目)	必修・選択	選択
授業概要	教育心理学とは、学び手としての子どもを心理学の視点から理解し、支援するための科学である。この授業では、学習者の認知過程についての知見をふまえた、新たな授業実践のあり方を解説する。								
到達目標	教授学習過程に関するこれまでの心理学的知見を学ぶことで、児童・生徒の理解を助けるために必要となる力を養う。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	教授学習過程とは 学習科学の研究成果と教育実践のつながり								
第2回	学習科学：思弁から科学へ カリキュラム，教授法，教育評価などへのアプローチ								
第3回	熟達 — 熟達者と初心者の違いは何か— 記憶方略，推論，問題解決などの認知過程に対する熟達の影響								
第4回	転移 — 学んだことを活用するために— 学習の転移が生じるために必要な「教育」とは								
第5回	認知発達 — 子どもはいかに学ぶのか— 幼児教育から学校教育へスムーズに移行するには								
第6回	神経科学 — 学習を支える脳のメカニズム— 神経科学と認知科学から得られた学習メカニズムに関する知見								
第7回	学習環境 — 学びの環境をデザインする— 何をいかに教え、どう評価するかについて改めて検討する								
第8回	算数教育 — 意味を理解させる— 就学前の子どもは数に対して生得的な興味を持っている								
第9回	理科教育 — ブラックボックスの内部を探る— 理科を学び、実践する際の心的過程を理解する								
第10回	読みの指導 — 大きな構図を見る— 熟練した読みに関する詳細な認知モデルを知る								
第11回	作文教育 — 知識の陳述から知識の変換へ— 文章を書くという課題は「不良構造化問題」の解決を強いる								
第12回	教育評価 — 指導と評価を一体化する— 指導と評価を「相関」ではなく「因果」から捉える								
第13回	教師の学習 — 教師の成長を支援する— 教師に求められる役割の変化と、その変化への対応								
第14回	情報教育 — 学習を支える情報テクノロジー— 学校に情報テクノロジーを導入する際のガイドラインを知る								
第15回	学習科学の現状 教育実践上の具体的な問題を解決するために								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	100	発表内容および討議への参加，予・復習の状況によって評価する。発表後に、コメントする。						
	レポート								
	小テスト								
	定期試験								
	その他								
評価の方法：	自由記載								
受講の心得	積極的な受講態度を期待します。毎回必ず1回は意見や見解を述べること。								
授業外学修	有意義な討議を行うため、必ず予習してから毎回の授業に臨むこと。								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
使用テキスト：自由記載	適宜資料を配付する。								
参考図書									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
	授業が変わる 認知心理学と教育実践が手を結ぶとき	松田文子・森 敏昭(監訳)	北大路書房	4-7628-2088-1	3200円				
	授業を変える 認知心理学のさらなる挑戦	森 敏昭・秋田喜代美(監訳)	北大路書房	978-4-7628-2275-9	3800円				
参考書：自由記載									
その他									
備考									

注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	

科目名	子ども社会学特論	授業番号	MC302	サブタイトル	
教員	中田 周作				
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期
				授業形態	講義(対面授業科目)
					必修・選択
					選択
授業概要	<p>本授業は、下記のテーマにしたがって進めていく。 受講学生は、順番に担当部分についての発表資料を作成し、その作成した資料にもついて発表を行う。 その発表に関しては、学生たち自身が質疑応答や討論をする。 教員は、この議論について適宜、補足説明をしたり、必要な事項について講義する。</p>				
到達目標	<p>現代社会における教育現象は、決して単純なものではない。教育分野における社会学的アプローチの有効性のひとつは、こうした複雑な社会現象を読み解くための枠組みを提供することである。 そこで、本授業では、現代社会のなかで生きる子どもや子どもを取り巻く社会集団等に関するテーマを取り上げ、社会学の方法を用いて分析する。 このような学習を積み重ねることにより、教育者・保育者として、社会現象としての教育についての確かな理解ができる実践者となることを目標とする。</p>				
授業計画 備考					
回	概要			担当	
第1回	子ども社会学の位置づけ -子ども社会学のバリエーション展開-				
第2回	子ども社会学の研究対象と研究方法 -子どもという研究対象の特徴を踏まえた研究の方法とは-				
第3回	子どもの発達と子どもの「居場所」 -「居場所」の定義と「居場所」に関する政策-				
第4回	子どもの「居場所」と臨床教育社会学 -子どもの「居場所」をどのように研究するのか-				
第5回	子どもの逸脱行動 -逸脱理論の展開-				
第6回	「いじめ」の定義の再検討 -「いじめ」の構造-				
第7回	学校と地域社会の連携 -学校運営協議会と地域学協働本部-				
第8回	母親の育児不安と父親の育児態度 -育児不安の実態調査と分析-				
第9回	母親の育児不安と育児サークル -地域社会はどのように子育てを支援するのか-				
第10回	現代日本の子ども観 -子どもに対する態度を決定するものは何か-				
第11回	子どもの仲間集団 -子どもの仲間集団の実態と構造-				
第12回	子どもの放課後と学童保育 -現状と課題-				
第13回	子ども研究の方法 -フォーカス・グループ・インタビュー-				
第14回	子ども研究の方法 -テキスト分析-				
第15回	子ども研究の方法 -SCAT Steps for Coding And Theorization-				
授業計画 備考2					
評価の方法					
	種別	割合	評価基準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	60	作成したレジュメ及びその修正		
	レポート				
	小テスト				
	定期試験				
	その他	40	発表及び質問		
評価の方法：自由記載					
受講の心得	積極的な姿勢で臨むこと。				
授業外学修	発表資料の作成				
使用テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	子ども社会学の現在	住田正樹	九州大学出版会	978-4-7985-0135-2	3800
使用テキスト：自由記載					
参考図書					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	<p>住田正樹・高島秀樹 編著『変動社会と子どもの発達』北樹出版 住田正樹・多賀太編『子どもへの現代的視点』北樹出版 酒井朗，多賀太，中村高康『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房 浜島朗ほか『社会学小辞典』有斐閣 近藤博之ほか『教育の社会学』放送大学教育振興会 日本子ども社会学会 編『いま、子ども社会に何がおこっているか』北大路書房 永井聖二・加藤 理 編『消費社会と子どもの文化』学文社</p>				
その他					

備考	
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者の有 無	無
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者	
実務経験を いかした教 育内容	

科目名	相談・援助特論		授業番号	ME301	サブタイトル						
教員	中 典子										
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修	選択	
授業概要	相談援助の進め方や実際について社会福祉の立場から講義し、ソーシャルワークやカウンセリング技術の学びを促し、子どもを取り巻く環境に働きかける支援について講義する。事例を通して子どもが生活する上で直面する課題に焦点をあてて支援する方法を学び、保育・教育現場における相談援助について説明する。										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 相談援助の基本的考え方を把握できるようになる。 2. 子どもと子どもを取り巻く環境の相互作用に焦点を当てた支援の実際を理解できるようになる。 3. 事例研究にもとづいて、アセスメントの方法が理解できるようになる。 										
授業計画 備考											
回	概要						担当				
第1回	相談援助の構造 子ども家庭支援のシステムを理解する。										
第2回	相談援助の理論・意義・機能 子ども家庭支援の意義と必要性を理解する。										
第3回	相談援助における技術 子ども家庭支援の目的と機能を理解する。										
第4回	相談援助の対象・プロセス 保育の専門性を生かした支援プロセスを理解する。										
第5回	相談援助の方法と技術 信頼関係を築くための保護者や子どもへの対応方法を理解する。										
第6回	関係機関との連携 子どもや保護者が利用している社会資源との連携の必要性を理解する。										
第7回	保育・教育相談援助の基本「子どもの福祉と最善の利益の遵守」 子どもの権利条約に基づく対人相談援助について理解する。										
第8回	保育・教育相談援助の基本「子どもの成長と喜びの共有」 保護者との情報共有の必要性を理解する。										
第9回	保育・教育相談援助の基本「保護者の養育力の向上と支援」 保護者に求められる資質を理解する。										
第10回	保育・教育相談援助の基本「受容、自己決定、秘密保持の遵守」 バイステックの対人援助の7原則を理解する。										
第11回	保育・教育相談援助の実際1 保育所を利用する子どもへの家庭支援の方法を理解する。										
第12回	保育・教育相談援助の実際2 地域の子育て家庭への支援の方法を理解する。										
第13回	保育・教育相談援助の実際3 要保護の子どもと家庭への支援の方法を理解する。										
第14回	保育・教育相談援助の実際4 障がいのある子どもと保護者への支援の方法を理解する。										
第15回	保育・教育相談援助の実際5 虐待の予防に向けての保護者への支援の方法を理解する。										
授業計画 備考2											
評価の方法											
種別	割合		評価基準・その他備考								
授業への取り組みの姿勢／態度	50		意欲のある受講態度、発表や討議への参加、予習・復習の状況によって評価する。								
レポート	50		事例研究にもとづいて保育・教育現場における相談援助の方法について具体的に述べられているかによって評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。								
評価の方法：自由記載											
受講の心得	授業中に提示した課題を期日までに提出するように心がけること。										
授業外学修	授業開始前までに、事前配付資料の内容を読んでおくこと。（1時間） 授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げしておくこと。（2時間） 授業で学んだ内容を振り返り、必要と考えることをノートにまとめておくこと。（1時間）										
使用テキスト											
書名	著者	出版社	ISBN	備考							
ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	杉本敏夫監修	ミネルヴァ書房	9784623098170	2,400円＋税							
使用テキスト：自由記載											
参考図書											
書名	著者	出版社	ISBN	備考							
参考書：自由記載	必要に応じて紹介する。										
その他											
備考											

注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	

科目名	発達障害児支援特論		授業番号	ME302	サブタイトル					
教員	原田 新									
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義 (対面授業科目)	必修・選択	選択	
授業概要	障害概念および発達障害の基礎知識を学んだ上で、二次障害の予防を見据えたインクルーシブ教育の環境、発達障害児への具体的な支援方法や関わり方、また家族支援の方法について身につけることを目指す。									
到達目標	各種の発達障害特性や支援方法について理解することで、発達障害児およびその家族が日常で直面する困難さにアプローチできる為の視点を身につけると共に、子育て支援、保育、教育等の現場に対して身につけた知識や方法を還元できるようになること。									
授業計画 備考										
回	概要					担当				
第1回	障害とは：障害の社会モデル、障害者差別解消法、差別、合理的配慮等についての基本的な考え方を理解する。									
第2回	発達障害の理解(1)：発達障害におけるスペクトラムの考え方について理解する。									
第3回	発達障害の理解(2)：自閉スペクトラム症の基礎知識について理解する。									
第4回	発達障害の理解(3)：注意欠如・多動症、限局的学習症の基礎知識について理解する。									
第5回	発達障害と二次障害：二次障害をもたらす悪循環や、その予防・回復のために必要なことについて理解する。									
第6回	インクルーシブ教育(1)：インクルーシブ教育についての基礎知識について理解する。									
第7回	インクルーシブ教育(2)：インクルーシブ教育や多様性について、事例から考える。									
第8回	インクルーシブ教育(3)：インクルーシブ教育や多様性について、事例から考える。									
第9回	インクルーシブ教育(4)：インクルーシブ教育や多様性について、事例から考える。									
第10回	発達障害児の見方と関わり方(1)：リフレーミングの基礎知識について理解する。									
第11回	発達障害児の見方と関わり方(2)：分かりやすい声かけや指示の仕方について理解する。									
第12回	発達障害児の家族支援(1)：ペアレント・プログラムの概要について理解する。									
第13回	発達障害児の家族支援(2)：ペアレント・プログラムにおける現状把握表の基礎的な書き方について理解する。									
第14回	発達障害児の家族支援(3)：ペアレント・プログラムにおける現状把握表の応用的な書き方について理解する。									
第15回	まとめ：これまでの授業内容について振り返ると共に、今後どのような形で活かせるかについて、話し合う。									
授業計画 備考2										
評価の方法										
	種別	割合	評価基準・その他備考							
	授業への取り組みの姿勢／態度	80	授業内での討論や演習等への参加状況、授業外での取り組み状況、授業内で作成する成果物を総合的に評価する。							
	レポート	20	授業に関わるテーマの小レポート（2回）を評価する。小レポートについては、その後の授業で発表してもらうと共に、教員からコメントする。							
評価の方法：自由記載										
受講の心得	シラバスに基づいて入念に予習を行って授業に臨むと共に、授業中に行う討論や演習等に参加すること。									
授業外学修	授業で配布する資料や、参考文献等を参照しながら、予習、復習を行うとともに、小レポートを作成すること。以上の内容を、計60時間以上学修すること。									
使用テキスト										
	書名	著者	出版社	ISBN	備考					
使用テキスト：自由記載										
参考図書										
	書名	著者	出版社	ISBN	備考					
参考書：自由記載										
その他										
備考										
注意事項										

担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	高等教育機関における障害学生支援（11年）
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者の有 無	無
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者	
実務経験を いかけた教 育内容	高等教育機関における発達障害学生支援の実例も交えながら説明する。

科目名	子どもの認知と学習特論	授業番号	ME303	サブタイトル	
教員	國田 祥子				
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期
				授業形態	講義(対面授業科目)
					必修・選択
					選択
授業概要	人の行動は内的な認知過程に依存しており、その過程は感情や意識、経験や知識などによって変化する。こうした認知機能と、それが子どもの学習過程にもたらす影響について学ぶ。				
到達目標	子どもの学習過程を認知的側面から捉えるための基礎知識および方法論を身に着ける。				
授業計画 備考					
回	概要				担当
第1回	学習および認知について 知識獲得のメカニズムについて解説する。				
第2回	古典的条件づけ 「刺激」と「反応」の連合によって学習を説明する理論を解説する。				
第3回	道具的条件づけ 生じた行動への「報酬／罰」による生起頻度の変化について解説する。				
第4回	技能学習 楽器演奏、スポーツ技能、ドライブ技術など、動作や技術の習得について解説する。				
第5回	社会的学習 他人の経験や体験を見聞することによる学習のメカニズムについて解説する。				
第6回	問題解決と推理 問題解決過程について説明し、その中で重要な役割を果たす推理について解説する。				
第7回	概念過程と言語獲得 人間がどのように概念や言語を獲得し、用いるかという問題について解説する。				
第8回	記憶のしくみ 「記録」-「保持」-「想起」から成る記憶のプロセスのうち、「記録」について解説する。				
第9回	情報の検索と忘却 記憶過程を経て貯蔵された情報を「検索」するしくみについて解説する。				
第10回	知識と表象 人の中に保持されている知識について、どのように記憶されているのかを解説する。				
第11回	イメージと空間の情報処理 画像的記憶の特徴について、さらにその表象である視覚イメージについて解説する。				
第12回	認知の制御過程 人間の認知的活動を円滑に進めるための制御の過程について、注意のメカニズムを中心に紹介する。				
第13回	文章の理解と記憶 文章理解がどのようになされているのか、またその意味をどのように記憶しているのかについて解説する。				
第14回	意思決定 意思決定という判断を私たちはどのように行っているのか、先行研究に基づいて解説する。				
第15回	日常世界の記憶 日常世界での認知活動と実験室で観察される認知活動のかかわりについて解説する。				
授業計画 備考2					
評価の方法					
	種別	割合	評価基準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度	100	発表内容および討議への参加、予・復習の状況によって評価する。フィードバックは討議の中で行う。		
	レポート				
	小テスト				
	定期試験				
	その他				
評価の方法： 自由記載					
受講の心得	積極的な受講態度を期待します。毎回必ず1回は意見や見解を述べること。				
授業外学修	有意義な討議を行うため、必ず予習してから毎回の授業に臨むこと。				
使用テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト： 自由記載	適宜資料を配付する。				
参考図書					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	グラフィック学習心理学	山内光哉・春木 豊(編著)	サイエンス社	978-4-7819-0977-9	2550円
	グラフィック認知心理学	森 敏昭・井上 毅・松井孝雄(共著)	サイエンス社	978-4-7819-0776-8	2400円
参考書：自 由記載					
その他					
備考					

注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	

科目名	子どもメディア特論			授業番号	MF301	サブタイトル			
教員	岸 誠一								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義(対面授業科目)	必修・選択	選択
授業概要	子どもを取り巻く情報メディア環境は、1人1台端末やスマートフォン使用の低年齢化が進むことにより、大きく様変わりつつある。そのため、社会全体が、子どもに対する適切な情報環境をどのように整備・構築するかが求められている。本授業では、前半部分でメディア教育の基礎理論およびその歴史と変遷および社会のメディアに変化について学修し、後半部分では主に学校教育でのメディア教育の現状を理解し児童生徒にどのように学ばせればよいのか検討する。								
到達目標	授業で学んだメディア教育の歴史やそれを取り巻く社会の状況、学校教育の実践を理解し、教育活動を行うときの考え方のベースを養う。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	メディア教育の重要性について-1 予測困難でかつ情報が氾濫している現代社会において、メディア教育が果たす役割とはまた課題は何か現状検討する。								
第2回	メディア教育とは何かと定義された時代のとらえ方と教育の状況を理解 国際映画テレビ協会(IFTC)が1973年に「メディア教育とは」なにかと定義した時代から10年を経て教育現場はどのように捉えどのような課題を抱えていたか理解する。								
第3回	メディア教育の歴史-1 コンピュータが出現するまでの視聴覚教育について 戦後「視聴覚教育」が社会教育と学校教育の2つに分かれて行われてきた時代に、教育現場でどのように実践されてを理解する。また現場の教員の指導の中心施設であった「視聴覚ライブラリー」の機能についても学修する。								
第4回	メディア教育の歴史-2 コンピュータが教育現場で使われ出してからインターネットが普及する前まで CMIやCAIとして初期のコンピュータ活用を行ってきた当時の教育現場の状況について、資料を参照しながら学修する。								
第5回	メディア教育の歴史-3 (インターネットとメディア教育) インターネットが普及してから現在まで インターネットの基本構造と、学校教育にどのようにして導入されまたどのように活用されてきたか学修する。								
第6回	メディア教育の歴史-4 (インターネットとメディア教育) インターネットが普及してから現在まで インターネットの基本構造と、ソーシャルメディアが個人の生活や社会に与える影響を探る。								
第7回	Society1.0～ 5.0という考え方を理解し長期的視点に立ってメディア教育の在り方を考える-1 Society4.0の現在を1.0(狩猟時代)から順次理解し今後あるべき社会の姿を考えることを通して現在のメディア教育の在り方を考える。								
第8回	Society1.0～ 5.0という考え方を理解し長期的視点に立ってメディア教育の在り方を考える-2 第7回の内容を踏まえてSociety4.0の現在を1.0(狩猟時代)から順次理解し今後あるべき社会の姿を考えることを通して今後のメディア教育の在り方を考える。								
第9回	一人1台端末時代に求められるメディアリテラシーとは-1 学校現場および家庭において情報端末の仕様に関する課題について現状分析を行う。								
第10回	一人1台端末時代に求められるメディアリテラシーとは-2 第9回の分析から、学校現場および家庭においてどのように課題を解決すればよいのか検討を行う。								
第11回	小学校教育現場におけるICT活用-1 現在小学校においてどのようなメディア教育が行われているか事例を分析し整理する。								
第12回	小学校教育現場におけるICT活用-2 第11回の分析を基にどのような活用が効果的か考え提案する。								
第13回	中学校教育現場におけるICT活用 中学校現場においてどのようなメディア教育が行われているか事例を分析し理解する。								
第14回	生成AIの教育現場でのガイドラインを理解し、活用事例を分析検討 事例については、リーディングDXスクール生成AIパイロット校の報告等を参照する。								
第15回	メディア教育の重要性について-2 講義全体の内容を踏まえて、公立学校においてメディア教育が果たすべき役割は何か、課題にどう対応すべきか視点を決めて提案する。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	50	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予習・復習の状況によって評価する。						
	レポート	50	課題について要点をおさえ、視点を決めて自分の考えを述べたレポートかどうかによって評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。						
評価の方法：自由記載									
受講の心得	授業で行った内容および資料を復習して次授業に臨む。指示された回にレポートを作成すること。なお、レポート作成にあたっては時代的背景を考慮する場合は、できるだけその時代の価値観で考察すること。								
授業外学修	1. 授業で解説された内容について復習しておくこと。 2. 指示された回にレポートを提出すること。								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
使用テキスト：自由記載	必要な資料は随時配布する								
参考図書									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				

参考書：自由記載	メディア・リテラシー-吟味思考(クリティカル・シンキング)を育む (坂本旬 著、世界思想社) AI時代の教育-「人間ならではの力」をどう育てるか (佐藤昌宏 著、実務教育出版) 1人1台端末時代の授業づくりとICT活用 (堀田龍也・佐藤和紀 編著、ぎょうせい) 科学教育と情報教育 (日本科学教育学会 編集)
その他	学内LANにつながる端末を用意しておくこと。
備考	
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	公立小学校長(8年)、公立幼稚園長(3年※小学校長と兼務)、公立小学校教諭(13年)、岡山県生涯学習センター(岡山県視聴覚ライブラリー担当3年)、岡山県情報教育センター(6年)での実務経験を有する。
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者の有無	無
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者	
実務経験を いかけた 教育内容	ICT教育の推進に学校長(幼稚園長)のリーダーシップは欠かせない。自分の校長(園長)時代の具体的な経験をもとにそれについて解説をしていく。また、教諭時代、授業の中でのICTの活用をした経験や、生涯学習センターで各学校のメディア教育担当の教員に対して行っていた研修および情報教育センターにおいて幼・小・中・高の教員対象に「授業における情報通信技術」の活用について行った研修の経験など、様々な内容について指導してきた経験を生かして、「学校現場」を想定した具体的な活用事例を紹介しながら大学院の学生に必要な思考力・実践力が身に付けられるような授業を展開していく。

科目名	地域教育社会学特論		授業番号	MF302	サブタイトル				
教員	中田 周作								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義(対面授業科目)	必修・選択	選択
授業概要	<p>本授業は、下記のテーマにしたがって進めていく。 受講学生は、順番に担当部分についての発表資料を作成し、その作成した資料にもついて発表を行う。 その発表に関しては、学生たち自身が質疑応答や討論をする。 教員は、この議論について適宜、補足説明をしたり、必要な事項について講義する。</p>								
到達目標	<p>現代社会における教育現象は、決して単純なものではない。教育分野における社会的アプローチの有効性のひとつは、こうした複雑な社会現象を読み解くための枠組みを提供することである。 そこで、本授業では、地域社会のなかで生きる子どもや子どもを取り巻く社会集団等に関するテーマを取り上げ、社会学の方法を用いて分析する。 このような学習を積み重ねることにより、教育者・保育者として、社会現象としての地域教育についての確かな理解ができる実践者となることを目標とする。</p>								
授業計画 備考									
回	概要				担当				
第1回	子どもの社会化とは何か								
第2回	現代日本の子ども観 (1)子ども観の定義と統計データから見る子ども観								
第3回	現代日本の子ども観 (2)課題図書に見る子ども観								
第4回	現代日本の子ども観 (3)地域住民の子ども観								
第5回	子ども社会化エージェント (1)子どもの仲間集団における社会化の特徴								
第6回	子ども社会化エージェント (2)近隣集団・地域集団における社会化の特徴								
第7回	子ども社会化エージェント (3)家族集団における社会化の特徴								
第8回	現代社会における子育て支援 (1)母親の育児不安の実態								
第9回	現代社会における子育て支援 (2)放課後子ども教室と学童保育								
第10回	現代社会における子育て支援 (3)近隣集団と地域集団の活動								
第11回	現代社会における子育て支援 (4)子どもとインターネット、ケータイ								
第12回	地域における子育て支援活動の現実 (1)放課後子どもプラン								
第13回	地域における子育て支援活動の現実 (2)教育支援人材の育成								
第14回	地域における子育て支援活動の現実 (3)地域集団における子育て支援活動(1)								
第15回	地域における子育て支援活動の現実 (4)地域集団における子育て支援活動(2)								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	60	作成したレジュメ及びその修正						
	レポート								
	小テスト								
	定期試験								
	その他	40	発表及び質問						
評価の方法： 自由記載									
受講の心得	積極的な姿勢で臨むこと。								
授業外学修	発表資料の作成								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
	子どもへの現代的視点	住田正樹・多賀太	北樹出版	4-7793-0076-2	2800				
使用テキスト： 自由記載									
参考図書									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
参考書：自由記載	住田正樹・高島秀樹編『変動社会と子どもの発達』北樹出版 住田正樹『子ども社会学の現在』九州大学出版会 酒井朗，多賀太，中村高康『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房 浜島朗ほか『社会学小辞典』有斐閣 近藤博之ほか『教育の社会学』放送大学教育振興会								
その他									

備考	
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者の有 無	無
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者	
実務経験を いかした教 育内容	

科目名	地域教育福祉特論			授業番号	MF303	サブタイトル			
教員	中 典子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義(対面授業科目)	必修・選択	選択
授業概要	現代社会における子どもを取り巻く環境を把握したうえで、子どもの教育環境・子ども家庭福祉政策の実態とその重要性について講義する。その際、「地域におけるネットワーク形成」に着目し、コミュニティワークの特質やそのあり方について説明する。また、院生自身が事例を読み解き、自らプレゼンテーションをする時間を設ける。								
到達目標	現代社会における子どもとその家族を取り巻く課題に対して、地域福祉・地域教育からのアプローチの方法とその特徴を理解できるようになる。子ども、家族に関する理解を前提に、子どもの権利を守る活動として地域福祉・地域教育実践を分析、考察することができるようになる。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	子どもをめぐる現状と課題 子どもをとりまく環境を理解する。								
第2回	「子どもの権利条約」からみた教育・福祉 児童の権利に関する条約の内容を理解する。								
第3回	地域ネットワークとは 地域の社会福祉に関する機関や施設の連携・協働の必要性を理解する。								
第4回	子育ての現状と子育てネットワーク 子育て支援関連の社会資源を理解する。								
第5回	保育・幼児教育施設における子育て支援 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における子育て支援の内容を理解する。								
第6回	児童館で展開される子育てネットワーク 児童館での子育て支援を理解する。								
第7回	学校現場を中心にみたネットワーク1 スクールソーシャルワークを理解する。								
第8回	学校現場を中心にみたネットワーク2 スクールソーシャルワーカーの役割を理解する。								
第9回	市町村における子どもの専門機関のネットワーク 行政における子育て支援対策を理解する。								
第10回	子どもの貧困対策に対する支援1 子どもの教育を保障するために行われている支援を理解する。								
第11回	子どもの貧困対策に対する支援2 子どもの教育を保障するために行われている保護者への支援を理解する。								
第12回	外国籍等の子どもに対する支援1 子どもの教育を保障するために行われている支援を理解する。								
第13回	外国籍等の子どもに対する支援2 子どもの教育を保障するために行われている保護者への支援を理解する。								
第14回	子どもをめぐるネットワークとは 子ども支援のために構築されているネットワークを理解する。								
第15回	地域教育・地域福祉の今後の展望と課題 子どもの教育を保障するためにどのような暮らしの支援が必要かを理解する。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。						
	レポート	50	出題に対して適切な分析力、表現力、また、参考文献・資料などの活用などについて評価する。コメントを記入して、返却する。						
	その他	30	プレゼンテーションについては、「他者によく分かる授業」を観点として評価する。						
評価の方法： 自由記載									
受講の心得	事前に提示した資料をよく読んでくこと。毎回の授業において、他学生としっかりディスカッションをすることにより学びを深めようと意欲的に取り組むこと。また、分からないところは自ら文献や先行研究論文を探し、他学生に提示できるように努力すること。								
授業外学修	授業開始前までに、事前配付資料の内容を読んでおくこと。(1時間) 授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げておくこと。(2時間) 授業で学んだ内容を振り返り、必要と考えることをノートにまとめておくこと。(1時間)								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
	地域がつくる子どもの居場所	西垣順子他	晃洋書房	9784771039957					
使用テキスト：自由記載									
参考図書									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
参考書：自由記載	必要に応じて提示する。								
その他									
備考									

注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	

科目名	子ども放課後特論			授業番号	MF304	サブタイトル			
教員	住野 好久								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義(対面授業科目)	必修・選択	選択
授業概要	現代における子どもの放課後対策の中心となっている放課後児童クラブ(学童保育)について、日本学童保育学会設立10周年記念誌『学童保育研究の課題と展望』に所収の論考を批判的に分析することを通じて学ぶ。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 現代における子どもの放課後対策の中心となっている放課後児童クラブ(学童保育)の現状と、その研究動向を理解する。 放課後における子どもの教育と福祉のあり方及び学校教育との連携のあり方について考える。 								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	子どもの放課後対策の現状 現代日本における子どもの放課後対策について全体像を理解する。								
第2回	子どもの放課後対策の課題 現代日本における子どもの放課後対策が抱えている課題を理解する。								
第3回	放課後児童健全育成事業(学童保育)政策の概要 現代における子どもの放課後対策の中心となっている放課後児童クラブ(学童保育)制度とその現状を理解する。								
第4回	放課後児童健全育成事業(学童保育)と子どもの生活保障 テキスト「第一部第1章 生活保障としての学童保育」を批判的に検討する。								
第5回	放課後児童健全育成事業(学童保育)と地域づくり テキスト「第一部第3章 『大きな家族』としての学童保育から地域づくりへ」を批判的に検討する。								
第6回	放課後児童健全育成事業(学童保育)と子どもの権利保障 テキスト「第一部第4章 子どもの権利と学童保育の子ども観・子育て観」を批判的に検討する。								
第7回	放課後児童健全育成事業(学童保育)と学校教育 テキスト「第一部第2章 学童保育と学校教育の現在と未来」を批判的に検討する。								
第8回	学童保育実践の特質と構造 テキスト「第二部第1章 学童保育実践の特質と構造」を批判的に検討する。								
第9回	学童保育指導員・支援員の職務と専門性 テキスト「第二部第2章 学童保育指導員・支援員の職務と専門性」を批判的に検討する。								
第10回	学童保育指導員の同僚性 テキスト「第二部第5章 実践者たちの同僚性と組織的な専門性向上」を批判的に検討する。								
第11回	学童保育実践と子どもたちの発達保障 テキスト「第三部第1章 今日の子どもの発達保障と学童保育実践」を批判的に検討する。								
第12回	学童保育実践とインクルーシブ子どもたちの発達保障 テキスト「第三部第2章 『特別な教育的ニーズ』のある子どもとインクルーシブ学童保育」を批判的に検討する。								
第13回	学童保育実践と家族支援 テキスト「第三部第3章 貧困・児童虐待問題と学童保育における家族支援」を批判的に検討する。								
第14回	学童保育研究の課題と展望 テキスト「第一部第5章 日本の学童保育史研究の課題と展望」を批判的に検討する。								
第15回	子どもの放課後対策の未来 子どもの放課後に対する総合的な対策の方向性を、海外の取組を踏まえて考える。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
授業への取り組みの姿勢/態度									
最終レポート		50	本科目の学習を理解した上で、子どもの放課後対策及び学童保育に関する考えを論述すること。						
小テスト									
定期試験									
授業での発表		50	テキストの内容理解及び批判的検討について発表する内容の妥当性。授業の中で発表内容についてコメントをする。						
評価の方法：自由記載									
受講の心得	子どもの発達保障を広い視野で考える思考様式を持って、積極的に討論に参画すること。								
授業外学修	<ol style="list-style-type: none"> 1) テキスト及び配付資料を熟読すること。 2) 学校外の子どもを対象とした様々な事業に参加したり、そうした事業に関する新聞記事を収集したりすること。 								
使用テキスト									
書名	著者	出版社	ISBN	備考					
学童保育研究の課題と展望	日本学童保育学会	明誠出版	4909942165	3080					
使用テキスト：自由記載									
参考図書									
書名	著者	出版社	ISBN	備考					
参考書：自由記載	厚生労働省「放課後児童クラブ運営指針解説書」								
その他									
備考									
注意事項									

担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者の有 無	無
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者	
実務経験を いかした教 育内容	

子ども学研究科 子ども学専攻
幼稚園教諭専修免許状

科目名	保育・幼児教育学特論			授業番号	MA301	サブタイトル			
教員	伊藤 智里								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義 (対面授業科目)	必修・選択	選択
授業概要	本講座では、子ども社会を実践的に読み解いていくための保育・幼児教育論について学ぶ。その過程で制度的な変遷と現在の課題について明らかにするとともに、諸外国との比較をしながら、幼児期の教育の課題や実践の方法について考察する。さらに、子どもを取り巻く家庭や地域の現状や保育者の専門性に対する理解力を高め、保育の実力を深めていく。								
到達目標	子どもの視点に立ちながら、より高度な活動の理解と解釈を可能にするために、保育・幼児教育の法令変遷について理解し、諸外国との比較も踏まえ日本の保育・幼児教育の課題を明確にするとともにそのあり方について考察することを目標とする。 また最新の保育制度や情報について深く理解し活用する。この科目の内容はディプロマポリシーに掲げる高度な専門性を備えた保育者の育成に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	保育・幼児教育の基本 現在の保育・幼児教育の基本的事項について確認する								
第2回	日本の保育・幼児教育の制度 1 日本の保育 (福祉系) の制度について概観し、課題を検討する								
第3回	日本の保育・幼児教育の制度 2 現在の幼児教育 (教育系) の制度について概観し、課題を検討する								
第4回	保幼小接続の仕組み 保育所・幼稚園・認定こども園・小学校の接続について、架け橋プログラムをもとに現状と課題を理解する								
第5回	幼児教育の歴史の変遷 1 幼児教育について、海外および日本の歴史の変遷を概観する								
第6回	保育・幼児教育の歴史の変遷 2 保育・養護の側面から海外および日本の歴史の変遷を概観する								
第7回	保育所・幼稚園・こども園の保育の比較と課題 保育所・幼稚園・認定こども園の各機関の役割の整理と現状の課題について検討する								
第8回	外国の保育・幼児教育 1 フィンランド、デンマークの幼児教育について概観する								
第9回	外国の保育・幼児教育 2 ニュージーランド、イタリアの幼児教育について概観する								
第10回	外国の保育・幼児教育 3 海外の保育・幼児教育について概観する								
第11回	保育・幼児教育思想 1 フレーベル、倉橋惣三が目指した幼児教育について検討する								
第12回	保育・幼児教育思想 2 モンテッソーリ、シュタイナーが目指した保育について検討する								
第13回	保育・幼児教育思想 3 現在に至るまでの教育・保育の思想家について確認する								
第14回	保育者の専門性 1 保育者が持つべき専門性について検討する								
第15回	保育者の専門性 2 今後の保育者に求められる専門性について検討する								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	40	自主的に調査結果を発表し討議できたかを評価する。						
	最終課題レポート	60	自分の得た知識や技術をさらに発展させることができるような記述内容であるかを評価する。 内容についてのコメントは、授業内または後日フィードバックする。						
評価の方法：自由記載	予習や意見発表など講義への取り組みの積極性と、レポートの論理性を基準に評価を行う。								
受講の心得	授業内容を理解し課題を行う中で、自分はどう考えるかについて周囲に伝えられるようにすることを心がける。								
授業外学修	1. 授業前に発表できる準備を行うこと。 2. 授業後に討論した内容について、まとめること。 以上の内容を週当たり4時間以上学修することが望ましい。								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
使用テキスト：自由記載	適宜資料を提示する。								
参考図書									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
参考書：自由記載	「保育用語辞典」「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」								
その他									
備考									
注意事項									

担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者の有 無	無
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者	
実務経験を いかした教 育内容	

科目名	子どもと表現演習	授業番号	MB307	サブタイトル	
教員	伊藤 智里				
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期
				授業形態	演習(対面授業科目)
					必修・選択
					選択
授業概要	子どもと表現に関する先行実践を学び、表現に関する指導や環境の在り方について検討する。また、様々な表現ツールを用いながら、その特徴や面白さや課題を確認する。その上で表現の指導に関する自身の問題意識を明らかにし、具体的な指導場面を想定し課題解決に向けた指導や教材の在り方について探究する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの表現に関する基本を踏まえ、育成すべき資質・能力について理解できる。 2. 子どもの表現を支える様々な取り組みを研究し、指導の構想に活用することができる。 3. 子どもの発達や学びの過程を理解し、素材や環境要素を研究し、自身の問題意識を持ちながら教材化することができる。 				
授業計画 備考					
回	概要				担当
第1回	表現とは1 幼児の表現に関する事例研究				
第2回	表現とは2 児童の表現に関する事例研究				
第3回	表現とは3 子どもと表現に関する事例研究(企業・自治体の取り組み)				
第4回	表現とは4 子どもと表現に関する事例研究(海外の取り組み)				
第5回	表現とは5 子どもと表現に関する研究の概観(日本で注目される子どもの表現)				
第6回	表現方法について1 子どもと造形表現について考える				
第7回	表現方法について2 子どもと音楽表現について考える				
第8回	表現方法について3 子どもと身体表現について考える				
第9回	表現方法について4 子どもと自然環境の関係と表現の方法について考える				
第10回	鑑賞について1 幼児と鑑賞活動				
第11回	鑑賞について2 児童と鑑賞活動				
第12回	教材の研究1 教材を活用した活動のねらい及び内容について				
第13回	教材の研究2 表現活動の環境について				
第14回	教材の研究3 教材の制作				
第15回	教材の研究4 教材の発表,振り返り				
授業計画 備考2					
評価の方法					
	種別	割合	評価基準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	50	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート・課題	50	課題について要点をおさえ、自分の考えを具体的に述べていること。レポート・課題はコメントをつけて返却する。		
評価の方法:	自由記載				
受講の心得					
授業外学修	<ol style="list-style-type: none"> 1 予習として、資料のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、課題のレポートを書く。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。				
使用テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト:自由記載	授業時に配布する資料を使用する。				
参考図書					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書:自由記載					
その他	教材研究では、はさみ、のり、テープ、色鉛筆、水彩絵具、クレパス、定規、コンパス、カッターなど、様々な画材、素材、道具を使用する。詳しい授業の準備物は授業の中で提示する。				
備考					
注意事項					

担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者の有 無	無
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者	
実務経験を いかした教 育内容	

科目名	子どもと健康演習		授業番号	MB308	サブタイトル						
教員	加賀 勝										
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修	選択	
授業概要	子どもと健康の現状と課題について講義し、学術論文等の文献について議論・要約・発表する。 子どもの身心の発育・発達についての現状と課題について講義し、学術論文等の文献について議論・要約・発表する。										
到達目標	下記の2点を本科目の到達目標に設定する。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた「保育所、幼稚園、認定こども園、小学校、地域社会、家庭などのあらゆる領域における子育て支援、保育、教育等の子どもに関わる営みの中で生じる様々な課題に対して、多様な視点からアプローチし、理論化を図る」ことに貢献する。 1. 子どもと健康に関する現状と課題について、論理的思考を持ち、課題解決することができる。 2. 子どもの発育・発達に関する現状と課題について理解し、課題への対応策を導き出すことができる。										
授業計画 備考											
回	概要					担当					
第1回	子どもの発育・発達 子どもの形態的（身体的）発育と機能的発達に関する文献から理解を深め、課題について議論する。										
第2回	子どもの発育に関係する諸要因 子どもの形態的（身体的）発育に関係する要因について、文献を精読して議論する。										
第3回	子どもの発達に関係する諸要因 子どもの機能的発達に関係する要因について、文献を精読して議論する。										
第4回	子どもの健康と運動 子どもの健康に及ぼす要因の一つである運動について理解を深め、課題について議論する。										
第5回	子どもの健康と栄養 子どもの健康に及ぼす要因の一つである栄養について理解を深め、課題について議論する。										
第6回	子どもの健康、発育に関する文献・論文の精読と討論 子どもの健康及び発育に関する文献から理解を深め、課題について議論する。										
第7回	子どもの健康、発育に関する文献・論文の要約と討論 子どもの健康及び発育に関する文献を精読し、その要約を作成して議論する。										
第8回	子どもの健康、発育に関する文献・論文の要約と発表 子どもの健康及び発育に関する文献を要約し、発表資料を作成して議論する。										
第9回	子どもの健康、発達に関する文献・論文の精読と討論 子どもの健康及び発達に関する文献から理解を深め、課題について議論する。										
第10回	子どもの健康、発達に関する文献・論文の要約と討論 子どもの健康及び発育に関する文献を精読し、その要約を作成して議論する。										
第11回	子どもの健康、発達に関する文献・論文の要約と発表 子どもの健康及び発育に関する文献を要約し、発表資料を作成して議論する。										
第12回	子どもの健康、栄養に関する文献・論文の精読と討論 子どもの健康及び発達に関する文献から理解を深め、課題について議論する。										
第13回	子どもの健康、栄養に関する文献・論文の要約と討論 子どもの健康及び発育に関する文献を精読し、その要約を作成して議論する。										
第14回	子どもの健康、栄養に関する文献・論文の要約と発表 子どもの健康及び栄養に関する文献を要約し、発表資料を作成して議論する。										
第15回	子どもの健康に関するまとめ 子どもと健康に関する現状と課題について、論理的な課題解決の方策を提案する。										
授業計画 備考2											
評価の方法											
種別	割合		評価基準・その他備考								
授業への取り組みの姿勢／態度	50		論理的思考や主体的な発話ができる。さらに、自己の興味・関心に基づき探究し、具現化（レポート等）することができる。 課題やレポートについてはコメントを記入し返却する。								
レポート	50		子どもの健康、発育・発達の特徴を捉え、理論的に発表したり、レポート作成ができる。 課題やレポートについてはコメントを記入し返却する。								
評価の方法：自由記載											
受講の心得	1. 子どもと健康に関する知見やその研究データなどを収集し、解決にむけた方法を探る。 2. 子どもと健康の発育・発達についての先行研究を集約し、研究方法について理解する。										
授業外学修	1. 子どもを対象とした健康に関する学術論文や文献を集め、そのポイントを記載する。 2. 具体的な子どもと健康の発育・発達を促す運動や場面について、生活の中でエピソードを収集する。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。										
使用テキスト											
書名	著者		出版社		ISBN			備考			
使用テキスト：自由記載											
参考図書											
書名	著者		出版社		ISBN			備考			
参考書：自由記載											
その他											
備考											
注意事項											

担当教員の 実務経験の有無	
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者の有 無	
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者	
実務経験を いかした教 育内容	

科目名	子どもと環境演習		授業番号	MB309	サブタイトル						
教員	齊藤 佳子										
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習(対面授業科目)	必修・選択	必修	選択	
授業概要	子どもが周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもって関わるには、指導者はどのような準備をし、どのように子どもに接すればよいか、ポイントを明確にしながら内容ごとに具体的に探っていく。また子どもが体験したことを生活に取り入れていくためには、どのような活動を展開したらよいかを実際の指導場面を考慮しながら考え、明らかにしていく。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが身近な環境に親しみ、自然とふれあい、様々な事象に興味・関心をもつためには、指導者はどのような準備、仕掛け、声かけをすればよいかポイントを述べるができる。 ・子どもが身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れている具体的な子どもの活動をイメージすることができる。そのためにはどうすればよいかを具体的に述べるができる。 ・物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにするためには、どのような遊び・活動が効果的なかを具体例を挙げながら述べるができる。 										
授業計画 備考											
回	概要						担当				
第1回	領域「環境」のねらいと内容 領域「環境」のねらいと内容、内容の取扱いについて要点を考察する。										
第2回	子どもの身近な環境とは何か、自然とは何か、子どもが興味・関心を持つためには、どうすればよいか考え、まとめる。										
第3回	子どもが身近な環境に自分から関わるにはどうすればよいか、発見を楽しむとはどういうことか、子どもはどのような場面で何を考えるか考え、まとめる。										
第4回	「(1)自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く」のような場面設定をし、準備し、言葉掛けをしたらよいか、子どもの活動を具体的にイメージして、まとめる。										
第5回	「(2)生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ。」のような場面設定をし、準備し、言葉掛けをしたらよいか、子どもの活動を具体的にイメージして、まとめる。										
第6回	「(3)季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く」のような場面設定をし、準備し、言葉掛けをしたらよいか、子どもの活動を具体的にイメージして、まとめる。										
第7回	「(4)自然などの身近な事象に関心を持ち、取り入れて遊ぶ」のような場面設定をし、準備し、言葉掛けをしたらよいか、子どもの活動を具体的にイメージして、まとめる。										
第8回	「(5)身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり大切にしたりする」のような場面設定をし、準備し、言葉掛けをしたらよいか、子どもの活動を具体的にイメージして、まとめる。										
第9回	「(6)日常生活の中で我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ」のような場面設定をし、準備し、言葉掛けをしたらよいか、子どもの活動を具体的にイメージして、まとめる。										
第10回	「(7)身近な物を大切に使う」のような場面設定をし、準備し、言葉掛けをしたらよいか、子どもの活動を具体的にイメージして、まとめる。										
第11回	「(8)身近な物や遊具に興味をもって関わり、自分なりに比べたり、関連付けたりしながら考えたり、試したりして工夫して遊ぶ」のような場面設定・準備・言葉掛けをしたらよいか、イメージして、まとめる。										
第12回	「(9)日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ」のような場面設定をし、準備し、言葉掛けをしたらよいか、子どもの活動を具体的にイメージして、まとめる。										
第13回	「(10)日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ」のような場面設定をし、準備し、言葉掛けをしたらよいか、子どもの活動を具体的にイメージして、まとめる。										
第14回	「(11)生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ」のような場面設定をし、準備し、言葉掛けをしたらよいか、子どもの活動を具体的にイメージして、まとめる。										
第15回	「(12)幼稚園内外の行事において国旗に親しむ」のような場面設定をし、準備し、言葉掛けをしたらよいか、子どもの活動を具体的にイメージして、まとめる。										
授業計画 備考2	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の前半で資料を集め、思索を深め、子どもの具体的な活動をイメージする。 ・授業の後半は、ポイントを押さえたレポートを作成する。 										
評価の方法											
種別	割合		評価基準・その他備考								
授業への取り組みの姿勢／態度	25		全授業を通じて、学修内容の様子や気付きをまとめ、学生自身の学びが可視化されたものを中心に、学びの過程を評価する。								
レポート	75		授業で学修した内容を深めることができたか、考え・発想・イメージの独自性、記述内容など、学びの成果を評価する。課題やレポートについてはコメントを記入して返却する。また、課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。								
小テスト											
定期試験											
その他											
評価の方法：自由記載	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の考え、発想、イメージを尊重する。 ・課題やレポートについてはコメントを記入して返却する。 										
受講の心得	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもと環境」について、深く根本的なことについて考え、イメージしていく。既成概念にこだわらない自由な考えを述べる。生き生きとした子どもの活動がイメージできたらよい。 ・授業で出た感想や疑問などをあらかじめ共有し、次回授業において議論するなど、各回の内容が有機的につながるよう工夫する。 										
授業外学修	「興味・関心」「自分から関わる」「発見を楽しむ」「考える」「生活に取り入れる」などのキーワードを日頃から意識し、見識を深めていくこと。										
使用テキスト											
書名	著者		出版社		ISBN			備考			
使用テキスト：自由記載	幼稚園教育要領解説、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説										
参考図書											
書名	著者		出版社		ISBN			備考			
参考書：自由記載											
その他											
備考											
注意事項											

担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者の有 無	無
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者	
実務経験を いかした教 育内容	

科目名	子ども人間関係演習		授業番号	MB310	サブタイトル				
教員	廣畑 まゆ美								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本授業は授業前に調べ学習を行い、授業は議論中心に行う。具体的には、幼児の仲間関係に関する研究のあり方について理解を深めるための先行研究レビューを行う。また、そのための質的研究方法論についての理解も深める。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・領域「人間関係」に関する研究の動向と課題を理解する。 ・研究の位置づけの方法やレビューの方法や幼児の人間関係にアプローチする質的研究方法論について理解する。 ・先行研究のまとめ方、議論の方法を身に付ける。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた「高度な専門性を備えた教育者」の育成に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	「人間関係」に関する研究とは何か … 発達研究と実践研究について理解を深める								
第2回	「幼児の仲間関係の動向と課題」を知る … 仲間関係研究の現状と課題を整理して議論する								
第3回	「保育者を介した幼児の仲間関係の多様性」に関する先行研究の報告と議論 … 受講生の発表と議論								
第4回	「幼児の協同的活動」に関する先行研究の報告と議論 … 受講生の発表と議論								
第5回	「障害がある幼児がいるクラスの仲間関係」に関する先行研究の報告と議論 … 受講生の発表と議論								
第6回	「保育者の人間関係に関する援助」に関する先行研究の報告と議論 … 受講生の発表と議論								
第7回	幼児の仲間関係を捉える質的研究方法論としてのエピソード記述…『エピソード記述入門』の紹介と議論								
第8回	幼児の仲間関係を捉える質的研究方法論としての事例研究…『発達心理学研究』における「事例研究」を扱った論文のまとめの発表と議論								
第9回	幼児の仲間関係を記録するドキュメンテーションと研究のあり方…ドキュメンテーションの紹介と議論								
第10回	質的研究方法について理解を深める…様々な研究手法の理解と実践								
第11回	質を分析する評価尺度の可能性と課題に関する議論								
第12回	幼児の仲間関係を捉える質的研究方法論としてのM-GTA…「子どもの経験を質的に描き出す試み：M-GTAとTEMの比較」の報告と議論								
第13回	幼児の仲間関係を捉える質的研究方法論としてのエスノグラフィ…『子どもエスノグラフィ入門』の紹介と議論								
第14回	エスノグラフィで幼児の仲間関係をどのように描けるか…『幼稚園で子どもはどう育つか』の紹介と議論								
第15回	幼児の仲間関係に関するテーマを基にした議論 … 各受講者の関心のあるテーマを基に議論								
授業計画 備考2									
評価の方法	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。						
	レポート	80	各回の授業で提示される課題について、自分の主張をいくつかの根拠にもとづいて明確に述べられているかを評価する。課題はコメントをつけて返却する。						
	小テスト								
	定期試験								
	その他								
評価の方法：	自由記載								
受講の心得	授業で配付された資料を予習して授業に臨むこと。配付するプリント・資料などを整理しておくこと。								
授業外学修	<ol style="list-style-type: none"> 1 予習として、配付された資料を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、課題レポートを書く。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。								
使用テキスト	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
使用テキスト：自由記載	使用しない。適宜資料を配布する。ファイリングするとともに、予習・復習に活用すること。								
参考図書	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
参考書：自由記載	使用しない。								
その他									
備考									
注意事項									

担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者の有 無	無
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者	
実務経験を いかした教 育内容	

子ども学研究科 子ども学専攻
小学校教諭専修免許状

科目名	学校教育学特論			授業番号	MA302	サブタイトル			
教員	西田 寛子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義(対面授業科目)	必修・選択	選択
授業概要	学校教育を多面的に捉え、教育理論・教育政策・学校組織・授業実践・評価・教師の専門性・学習者支援などの観点から総合的に検討する。教育実践の改善を理論的に説明できる力量の形成を目指す。								
到達目標	学校教育に関する主要理論・概念を理解し説明できる。 理論と教育実践・教育政策との関係を論じることができる。 学校教育に関わる課題を研究的視点から分析できる。 自身の教育観・実践観を理論的根拠に基づき再構築できる。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	ガイダンス・学校教育学の視座 学校教育学の対象領域および本講座の目的・方法を理解する。あわせて、受講者自身の問題関心や研究課題を明確化する。								
第2回	学校教育を支える教育理論 学校教育を支える主要な教育理論および学習観の変遷を理解する。特に、構成主義的学習観の意義について検討する。								
第3回	現代学校教育の課題 現代の学校教育が直面する諸課題を整理し、その背景にある教育観・学習観の変容について理解を深める。								
第4回	教育政策と学校教育 教育政策および学習指導要領の理念を理解する。政策と教育実践との関係や課題について検討する。								
第5回	学校組織と教育実践 学校組織の特性および組織的教育改善の視点を理解する。学校組織と授業実践との関連について考察する。								
第6回	教師の専門性と成長 教師の専門職性および力量形成に関する理論を理解する。教師の成長をどのように捉えるかについて検討する。								
第7回	授業研究の理論 授業研究の意義および授業分析の視点を理解する。理論的視座から授業を検討する枠組みを把握する。								
第8回	学習評価の理論 学習評価の基本的な考えおよび評価観の転換を理解する。評価と学習との関係について検討する。								
第9回	学習者理解と動機づけ 学習者理解および動機づけ理論の基礎を理解する。学習支援の理論的背景について考察する。								
第10回	自己調整学習と学校教育 自己調整学習理論の基本的枠組みを理解する。自己調整学習と授業設計との関係について検討する。								
第11回	学習環境デザイン 学習環境に関する理論的視点を理解する。学級・授業環境の設計原理について考察する。								
第12回	エビデンスに基づく教育改善 教育実践の改善におけるエビデンスの意義を理解する。実践研究およびデータ活用の考え方について検討する。								
第13回	学校教育研究の方法 学校教育研究における研究方法の基礎を理解する。質的研究・量的研究・実践研究の特徴について整理する。								
第14回	受講者発表・理論的検討 受講者による研究関心の発表を通して、学校教育学の理論的枠組みに基づき検討を行う。								
第15回	総括・学校教育観の再構築 講座全体で扱った理論および概念を統合的に理解する。自身の学校教育観および研究視座を再構築する。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	発表・討議への貢献	40	意欲的な受講態度、発表・討議への参加の状況によって評価する。						
	課題レポート	30	課題について要点をおさえ、自分の考えを述べたレポートによって評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。						
	最終レポート	30	学校教育に関する任意のテーマについて、学校教育学の理論的枠組みに基づき論述されていることを評価の基本とする。評価にあたっては、単なる意見表明や経験的感想ではなく、学術的視点に立脚した論理的考察が展開されているかを重視する。						
評価の方法：	自由記載								
受講の心得	受講にあたっては、知識の受動的習得ではなく、理論的根拠に基づく主体的な思考と討議への積極的参加が求められる。授業では、意見や経験の提示にとどまらず、概念・理論・論理による説明を重視する。また、討議型授業のため、指定文献・資料を事前に読解したうえで出席すること。								
授業外学修	事前学修として、指定文献・資料を読み、主要概念および論点を整理すること。事後学修として、授業内容や議論を踏まえ、自身の理解を再構成すること。最終レポート作成に向けては、授業で扱った理論の統合的理解を図ること。授業外学修時間の目安は各回2～3時間とする。								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
使用テキスト：自由記載	授業の中で適宜資料を配付する。								

参考図書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
教育「変革」の時代の羅針盤：「教育DX×個別最適な学び」の光と影	石井英真	教育出版社		
授業づくりの深め方：「よい授業」をデザインするための5つのツボ	石井英真	ミネルバ書房		
新版 学校を改革するー学びの共同体の構想と実践	佐藤学	岩波書店		
学力テスト改革を読み解く！「確かな学力」を保障するパフォーマンス評価	西岡加名恵	明示図書		
信頼ベースの学級づくりの理論と実践	久我直人	ふくろう出版		
自己調整学習の成立過程 学習方略と動機づけの役割	伊藤崇達	北大路書房		
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の 実務経験の有無	有			
担当教員の 実務経験	公立小中学校・中高一貫教育校教員（34年）、県教育委員会指導主事（4年）の実務経験を有する。			
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者の有無				
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者				
実務経験を いかけた教育 内容	学校現場ならびに県教育委員会での実務経験（38年）を生かし、学校現場の教育改善を理論的に説明できる力量の形成を目指す。			

科目名	子どもと音楽演習	授業番号	MB302	サブタイトル	小学校音楽1～6年
教員	川崎 泰子				
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期
				授業形態	演習(対面授業科目)
					必修・選択
					選択
授業概要	子どもと音楽の関係や年齢に応じた音楽活動についての知識を整理する。次に、現場における自らの実践事例記録などで観察される様々な課題を分析し改善することを通して、子どもと音楽の関係性に対する理解を深める。その上で、実践的な表現方法のあり方を考察し、より発展的な表現技法や表現形態についても考察を進める。				
到達目標	子どもの発達において音楽的感性や表現力を培うことは重要なことである。本授業では、子どもの音楽的成長と発達について理解し、子どもの感性を育むための音楽の役割について理解することを目標とする。また、子どもと関わる保育者・教師自身による豊かな音楽的感性や表現力を身につける。さらに、子どもが豊かな音楽表現を身につけるためには、どのような音楽的活動を経験させ、どのような指導・援助を行うことが望ましいのかについて多面的に考察する。加えて、教育現場における具体的課題への接近方法を探究する。				
授業計画 備考					
回	概要				担当
第1回	小学校の音楽科教育の現状と課題 小学校における音楽科教育の意義と内容/音楽科学習指導要領				
第2回	表現-歌唱、器楽、創作- 1年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ(移動ト唱法を含む) ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校1年生共通教材弾き歌いについて理解・習得する				
第3回	表現-歌唱、器楽、創作- 2年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ(移動ト唱法を含む) ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校2年生共通教材弾き歌いについて演習し理解を深める				
第4回	表現-歌唱、器楽、創作- 3年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ(移動ト唱法を含む) ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校3年生共通教材弾き歌いについて演習し理解を深める ④器楽(ソプラノコーダー)について指導のポイント等の考察・演習				
第5回	「表現」および「共通教材」～歌唱～ 1～3年生までの共通教材歌唱成果発表(弾き歌いを含む)、評価について考察する				
第6回	表現-歌唱、器楽、創作- 4年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ(移動ト唱法を含む) ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校4年生共通教材弾き歌いについて演習し理解を深める ④器楽(ソプラノコーダー)について指導のポイント等の考察・演習				
第7回	表現-歌唱、器楽、創作- 5年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ(移動ト唱法を含む) ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校5年生共通教材弾き歌いについて演習し理解を深める ④器楽(ソプラノコーダー)について指導のポイント等の考察・演習				
第8回	表現-歌唱、器楽、創作- 6年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ(移動ト唱法を含む) ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校6年生共通教材弾き歌いについて演習し理解を深める ④器楽(ソプラノコーダー)について指導のポイント等の考察・演習				
第9回	「表現」および「共通教材」～歌唱～ 3～6年生までの共通教材歌唱成果発表(弾き歌いを含む)、評価について考察する				
第10回	「表現」および「共通教材」～器楽～ ①器楽指導、創作 ②グループに分かれ器楽アンサンブル 楽器の演奏方法、アンサンブルについて理解する ③グループ器楽アンサンブル発表準備				
第11回	「表現」および「共通教材」～器楽～ ①器楽指導、創作 ②グループに分かれ器楽アンサンブル 楽器の演奏方法、アンサンブルについて理解する ③グループ器楽アンサンブル発表、評価について考察する				
第12回	「鑑賞」および「共通教材」1,2,3年生 ①小学校教育における鑑賞指導の意義と目的を理解 ②指導法のポイント及び「ICTの活用」について ③鑑賞曲について				
第13回	「鑑賞」および「共通教材」4,5,6年生 ①小学校教育における鑑賞指導の意義と目的を理解 ②指導法のポイント及び「ICTの活用」について ③鑑賞曲について				
第14回	共通事項 音楽理論の確認 ①「音楽を形づくっている要素」と「それらに関わる音符、休符、記号や用語」 ②楽譜の読み書きに用いる音楽用語を理解し、音階、移調について理解を深める ③小テスト				
第15回	まとめ「表現」および「共通教材」-歌唱、器楽、創作- 1～6年生までの共通教材弾き歌い、ソプラノコーダー(課題曲2曲(重唱含む))成果発表 評価について考察する				
授業計画 備考2					
評価の方法					
	種別	割合	評価基準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	30	意欲的な受講態度、予習及び復習の状況により評価する。		
	レポート	20	レポート課題は、学習内容の理解度・定着度を評価基準として添削を行い、講評を付して返却する。		
	小テスト(実技試験、グループ発表)	50	最終的な理解度定着度を評価する		

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	授業で習得した理論や技術が次回の授業で表出・発揮できるよう、努力してください。
授業外学修	授業で提示される次回の内容について、予習すること。 授業で提示された課題を実施し、復習すること。 上記の内容を、週当たり4時間程度学修すること。
使用テキスト	
書名	著者
	出版社
	ISBN
	備考
使用テキスト：自由記載	小学校音楽1～6年
参考図書	
書名	著者
	出版社
	ISBN
	備考
参考書：自由記載	小学校音楽1～6年 小学校学習指導要領「音楽」
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小学校、中学校、私立中学、私立高校講師などの教員歴（20年）、少年少女合唱団主宰【2023年福武教育文化賞受賞】（12年）、数々の学校にて歌唱指導（20年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	実務経験を活かしての音楽的指導、音楽実技、またはそれらに必要な音楽的知識や理解を深め、実践的指導力の向上に努める。

科目名	子どもと英語演習			授業番号	MB303	サブタイトル			
教員	西田 寛子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	英語教育に関する先行研究ならびに先行実践について検討し、理論に基づく指導の改善について考察する。また、英語教育の課題解決に向けた指導と評価の在り方について探究する。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 英語教育に関する理論と実践について考察し、現状における課題の解決に向けた指導と評価の在り方について探究できる。 具体的な実践・評価構想について論議できる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げたく高度な専門性を備えた教育者の育成)に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	英語教育の現状について議論する。								
第2回	英語教育の課題について議論する。								
第3回	課題解決のための理論研究（1）：自己調整学習の理論に基づく指導の改善について論議する。								
第4回	課題解決のための理論研究（2）：学校組織開発理論に基づく指導の改善について論議する。								
第5回	課題解決のための理論研究（3）：自己調整学習の理論と学校組織開発理論の融合理論に基づく指導の改善について論議する。								
第6回	実践研究の方法論（1）：「聞くこと」についての指導と評価について論議する。								
第7回	実践研究の方法論（2）：「話すこと（やり取り・発表）」についての指導と評価について論議する。								
第8回	実践研究の方法論（3）：「読むこと」についての指導と評価について論議する。								
第9回	実践研究の方法論（4）：「書くこと」についての指導と評価について論議する。								
第10回	実践研究の方法論（5）：「主体的・対話的で深い学び」の在り方について論議する。								
第11回	実践研究の方法論（6）：「チーム・ティーチング」の在り方について論議する。								
第12回	実践研究の方法論（7）：「視聴覚教材・ICT」の効果的な活用について論議する。								
第13回	実践研究の方法論（8）：「他教科等との連携」「異校（園）種間連携」の在り方について論議する。								
第14回	理論に基づく実践構想の発表（プレゼンテーション）を行う。								
第15回	発表の振り返りと改善策の考案・まとめを行う。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な受講態度、発表・討議への参加・貢献、課題解決に向けた積極的な姿勢等を評価する。						
	レポート	50	理論に基づく具体的な実践構想について、レポート（紙媒体）ならびにプレゼンテーションで評価する。レポートについては、コメントを記入して返却する。						
評価の方法：自由記載									
受講の心得	<ul style="list-style-type: none"> 授業で配布される資料について予習・復習をすること。 疑問点や課題について、自ら進んでリサーチし、その解決策について探究すること。 授業中は積極的に発言すること。 								
授業外学修	<ul style="list-style-type: none"> 予習として、配付資料を読み、疑問点を明らかにして受講する。 復習として、課題のレポートを書く。 授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週あたり4時間以上学修すること。 								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
使用テキスト：自由記載	資料を授業で配付する。								
参考図書									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
参考書：自由記載	授業で紹介する。								
その他									
備考									
注意事項									

担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者の有 無	
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者	公立中学校教諭・指導教諭（28年）、公立中高一貫教育校指導教諭（6年）、公立小学校指導教諭（公立中学校指導教諭との兼務：1年）、県教育委員会指導主事（4年）での実務経験を有する。
実務経験を いかけた教 育内容	英語科教員・指導主事としての実務経験（38年）を生かし、学校・園等の英語教育に携わる指導者に求められる高度な実践力を育成する。

科目名	子どもと理科演習			授業番号	MB304	サブタイトル					
教員	岸 誠一										
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習(対面授業科目)	必修・選択	必修	選択	
授業概要	小学校学習指導要領に示された目標や内容について分析し、育成すべき資質能力について概括する。また、理科の指導と評価の一体化について理解する。更に、いくつかの単元について、観察・実験の方法を習得し、教材研究の技能を身に付ける。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 小学校学習指導要領に示された理科の目標や内容に基づき、理科の効果的な学習指導の方法について理解する。 具体的な授業場面を想定した教材研究及び観察・実験の技能を身に付ける 										
授業計画 備考											
回	概要						担当				
第1回	小学校理科の学習指導要領を読み解く-1 平成29年度に告示された小学校学習指導要領理科編の第1章総説に示された改定の基本方針を社会の現状と合わせて理解する。										
第2回	小学校理科の学習指導要領を読み解く-2 第1回に引き続き小学校学習指導要領理科編に示された理科の目標や内容について理解する。										
第3回	理科で育成する資質・能力 小学校学習指導要領理科に示された育成すべき三つの資質能力及び問題解決能力について理解する。										
第4回	理科の指導と評価について 平成29年度に告示された学習指導要領にある評価の観点と趣旨について理解する。										
第5回	観察および実験と児童生徒の認知について 観察する対象や実験結果について、全員が同じように見えているのか事例を基に考察する。										
第6回	小学校理科におけるICT活用について 小学校理科の授業においてタブレットを活用した事例やプログラミングを取り入れた事例からどのように活用すれば理科の目標に沿って効果を上げることができるか検討する。										
第7回	物理領域にかかわる教材研究-1 小学校理科の「A 物質・エネルギー」の物理領域に係る効果的な教材や指導法について具体的な事例を基に考察する。										
第8回	物理領域にかかわる教材研究-2 小学校理科の「A 物質・エネルギー」の物理領域に係る効果的な教材や指導法について考察し提案する。										
第9回	化学領域にかかわる教材研究-1 小学校理科の「A 物質・エネルギー」の化学領域に係る効果的な教材や指導法について具体的な事例を基に考察する。										
第10回	化学領域にかかわる教材研究-2 小学校理科の「A 物質・エネルギー」の化学領域に係る効果的な教材や指導法について考察し提案する。										
第11回	生物領域にかかわる教材研究-1 小学校理科の「B 生命・地球」の生物領域に係る効果的な教材や指導法について具体的な事例を基に考察する。										
第12回	生物領域にかかわる教材研究-2 小学校理科の「B 生命・地球」の生物領域に係る効果的な教材や指導法について考察し提案する。										
第13回	地学領域にかかわる教材研究-1 小学校理科の「B 生命・地球」の地学領域に係る効果的な教材や指導法について具体的な事例を基に考察する。										
第14回	地学領域にかかわる教材研究-2 小学校理科の「B 生命・地球」の地学領域に係る効果的な教材や指導法について考察し提案する。										
第15回	1時間の学習展開を考え提案する 講義内容の第6回から14回で取り扱った事例について1つ選び、自分が授業を行うことを想定して学習展開を考え、発表して議論する。										
授業計画 備考2											
評価の方法											
	種別	割合	評価基準・その他備考								
	授業への取り組みの姿勢/態度	40	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。								
	レポート	60	課題について要点をおさえ、自分の考えを述べたレポートによって評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。								
評価の方法：自由記載											
受講の心得	扱う内容について予習をして質問する事項をまとめておくこと。 授業で行った内容および資料を復習して整理し第15回で活用できるようにまとめておくこと。										
授業外学修	<ol style="list-style-type: none"> 1. 次回の演習内容について予習しておくこと。 2. 授業で解説された内容について復習しておくこと。 3. 指示された回にレポートを提出すること。 										
使用テキスト											
	書名	著者	出版社	ISBN	備考						
	新しい理科3年～6年		東京書籍		111						
	小学校学習指導要領解説理科編	文部科学省	東京書籍	978-4487287048							
使用テキスト：自由記載											

参考図書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(小学校理科)	国立教育政策研究所 編			
参考書：自由記載	シラバスにある「指導と評価の一体化」を具現化するための必読資料です。文部科学省のウェブサイトでも公開されていますが、書籍版は手元にあると便利です。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の 実務経験の有無	有			
担当教員の 実務経験	公立小学校教諭(13年), 公立小学校長(8年)での実務経験を有する。			
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者の有無	無			
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者				
実務経験を いかけた教育 内容	公立小学校教諭(13年), 公立小学校長(8年)での実務経験を基に教育現場で必要とされる自然科学を中心とした教養が養われるよう指導する。			

科目名	子ども算数演習	授業番号	MB305	サブタイトル					
教員	平井 安久								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	算数学習の内容論的考察と方法論的考察を理解し、算数教育の研究課題について検討することから、算数学習・算数教育のあり方について考察する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 算数学習の内容論的考察と方法論的考察について理解することができる。 2 算数教育の研究課題を探究することができる。 3 算数学習・算数教育のあり方について考察することができる。 								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	算数学習の内容論的考察（数と計算）								
第2回	算数学習の内容論的考察（図形）								
第3回	算数学習の内容論的考察（測定、変化と関係）								
第4回	算数学習の内容論的考察（データの活用）								
第5回	算数学習の方法論的考察（認知プロセスとしての数学的活動）								
第6回	算数学習の方法論的考察（数学的推論と操作的証明）								
第7回	算数学習の方法論的考察（数学史と数学的活動）								
第8回	算数学習の方法論的考察（教授パラダイムと教師の専門性）								
第9回	算数教育の研究課題（達成度調査の国際比較）								
第10回	算数教育の研究課題（世界と日本の授業研究）								
第11回	算数教育の研究課題（問題解決型の授業）								
第12回	算数教育の研究課題（発達段階と学習指導）								
第13回	算数教育の研究課題（コミュニケーションの役割と機能）								
第14回	算数教育の研究課題（教科書の変遷）								
第15回	算数学習・算数教育のあり方								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，発表・討議への参加の状況を評価する。						
	レポート	60	演習の要点を理解し，自分の考えを述べた内容を評価する。レポートの解説をしながら、進めていく。						
評価の方法：	自由記載								
受講の心得	授業で配付する資料等について予習・復習し，自分の疑問や意見をもって授業に臨むこと。								
授業外学修	<ol style="list-style-type: none"> 1 復習として，授業内容をノートにまとめて整理すること。 2 予習として，配付した資料等を熟読し，自分の疑問や意見をもつこと。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
使用テキスト：自由記載	テキストは特に指定しない。必要な資料を各回用意する。								
参考図書									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
参考書：自由記載	必要な文献・資料等を各回紹介する。								
その他									
備考									
注意事項									

担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者の有 無	無
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者	
実務経験を いかした教 育内容	

科目名	子どもと国語演習	授業番号	MB306	サブタイトル	
教員	太田 憲孝				
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期
				授業形態	演習 (対面授業科目)
					必修・選択
					選択
授業概要	国語科教育に関する先行文献及び先行実践の研究、小学校国語科教科書に掲載されている教材の特質の理解を通して、国語科教育についての確かな教科観及び指導観等を身に付け、今日的課題に即した授業構想を検討する。				
到達目標	国語科教育に関する先行文献や先行実践を研究したり、教科書に掲載されている教材を分析し教材の特質を捉えたりして、国語科教育に対する確かな学力観及び指導観等を身に付けるとともに、今日的課題に即した授業のあり方を具現化することを目標とする。 この科目は、ディプロマポリシーに掲げた確かな専門性を備えた保育者、教育者、研究者の育成に貢献する。				
授業計画 備考					
回	概要			担当	
第1回	国語科教育の現状と課題 「国語科教育に関する先行文献や先行実践を検討し、今日の国語科教育の現状と課題を明らかにする。」				
第2回	小学校における文学的文章の指導 (1) 「教科書に掲載されている物語を分析し、読者を引き付ける物語の構造や仕掛けを理解する。」				
第3回	小学校における文学的文章の指導 (2) 「教科書に掲載されている物語を分析し、読者を引き付ける文学的表現を理解する。」				
第4回	小学校における文学的文章の指導 (3) 「語り手が顕在化している物語を分析し、作者の想を理解する。」				
第5回	小学校における文学的文章指導のあり方 「文学的文章の特質を整理し、指導のあり方を構想する。」				
第6回	小学校における説明的文章の指導 (1) 「説明的文章の指導に関する先行文献及び先行実践を検討し、現状と課題を理解する。」				
第7回	小学校における説明的文章の指導 (2) 「教科書に掲載されている説明的文章を分析し、読者を説得する文章の構造や仕掛けについて理解する。」				
第8回	小学校における説明的文章の指導 (3) 「教科書に掲載されている説明的文章を分析し、読者を説得する説明的言語と文学的言語について理解する。」				
第9回	小学校における説明的文章の指導 (4) 「説明的文章の特質を整理し、説明的文章の指導のあり方を構想する。」				
第10回	小学校における「書くこと」の指導 (1) 「書くことに関する先行文献及び先行実践、現行の学習指導要領を検討し、現状と課題を理解する。」				
第11回	小学校における「書くこと」の指導 (2) 「教科書に掲載されている教材を分析し、実用的文章指導の実際を理解する。」				
第12回	小学校における「書くこと」の指導 (3) 「生活綴り方において実践された作文を分析し、人格形成に資する作文指導を理解する。」				
第13回	小学校における「書くこと」の指導 (4) 「書くことに関する指導の傾向を整理し、「書くこと」の指導のあり方を構想する。」				
第14回	「主体的・対話的で深い学び」の授業改善 (1) 「主体的・対話的で深い学び」について、先行文献を調べ、その趣旨や課題を理解する。」				
第15回	「主体的・対話的で深い学び」の授業改善 (2) 「先行実践を調べ、「主体的・対話的で深い学び」の改善点を検討する。」				
授業計画 備考2					
評価の方法					
	種別	割合	評価基準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	50	予習及び討論への参加の状況によって評価する。		
	レポート	50	授業内容の理解度をレポート及び発表によって評価する。提出されたレポートは、授業の中で読み合い、学びの深まりを確認する。		
	小テスト				
	定期試験				
	その他				
評価の方法：自由記載	授業及び研究と向き合う姿勢が重要である。				
受講の心得	資料の読み合わせ及び討論に積極的に参加し、研究の深まりや楽しさを実感すること。 予習では、授業で用いる資料を深く読み込み、自分の考えをもって授業に臨むこと。				
授業外学修	1. 授業内容は、ファイルやノートに整理しておくこと。 2. 予習として、授業で用いる文献を熟読しておくこと。 3. 授業での学びをきっかけにして、関係する文献を調べ研究を充実させること。				
使用テキスト	書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	毎回プリント資料を配付する。				
参考図書	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載					
その他					
備考					
注意事項					

担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	公立小中学校・小中一貫校国語科教員(27年), 国立附属中学校国語科教員(4年), 市教育委員会指導主事(3年)
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	小学校学習指導要領の理解, 教材分析